

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「桜のトンネル」

呼吸器内科学教室 教授 今野 哲(会員2)

CONTENTS

- (1) 医学研究院長再任挨拶
卒業生に贈る言葉
(2) 令和5年(2023年)4月1日キックオフ
北海道大学創基150周年事業へのご協力のお祝い
(3) 令和4年度総会報告
(4) 第99期生を歓迎して
(5) 令和5年4月 1年次入学者名簿
(6) 計報 名誉教授 松本 簡三先生(30期)を偲んで
(7) 計報 名誉教授 菅野 盛夫先生(38期)を偲んで
(8) 令和4年度 医学研究院・大学院医学科
(9) 崎山 幸雄 福原 榮介 高橋 誠 新垣 雅人
(10) 手裏 雅彦 前田 拓哉 児島 裕一 表 和徳
(11) スームアップ2
(12) 新世紀の医学に向けて(49)矢部 一郎 白井 慎一
(13) 医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第11回
(14) 告知板
(15) 事務局からお知らせ
(16) 北海道医学会からのお知らせ

医学研究院長再任挨拶



医学部長・医学研究院長

はたけやま しげ つぐ
畠山 鎮次(66期)

令和5年4月1日付けで、北海道大学大学院医学研究院の医学研究院長(医学院・医学院長および医学部・医学部長)を再任させていただくことになりました。

今年で北海道大学医学部は創立104周年を迎えます。医学部創立100周年記念事業で建設された同窓生や医学部教職員が集う「医学部百年記念館」も、実際に多くの関係教職員や同窓生に多目的に利用されており、また、規模が拡大した「北海道大学大学院医学研究院・大学院医学科・医学部医学科教育・研究・

国際交流基金」も戦略的に活用され始めております。3年間以上続いている新型コロナウイルス感染症の拡大も、日本政府の対応としては少しずつ収束の兆しが見えてきた感があります。しかしながら、医学医療を担う人材を育てる医学部では、細心の注意を払いながら建設的な教育・研究活動を推進する使命がございます。

そのためには、多くのことで現状に合ったきめ細かい組織運営が必要であると考えております。微力ではありますが、将来を見据え、国民の負託に応えるべく医学研究院・医学院・医学部の役割を果たしていく所存です。

卒業生に贈る言葉

99期の119名の皆さん、卒業おめでとうございます。北海道大学医学部医学科の課程を修了し、これから医師あるいは研究者として活躍される皆さんの輝かしい門出を、医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が唱えた"lofty ambition" (高邁なる大志) という言葉は、世紀を超えて北海道大学を揺るぎなく支えてきた理念であります。

その理念を継承していることとして、北海道大学の基本理念のひとつに「全人教育」があります。全人とは、知識・感情・意志の調和のとれた人であります。皆さんは、修得した知識とともに、この北海道大学の学び舎で涵養してきた志や人間性をもとに、医学・医療の活動を通じて人類社会に貢献する立場になりました。今後も、皆さんも医学・医療のように進歩が著しい分野に身を置く者として絶えず研鑽し続けなければなりません。それによって、医師・研究者としての社会的責任の一端を果たすことができ

るのです。医師は、公益性、道徳性、専門性が強く求められる専門職(プロフェッション)です。医師のプロフェッショナルリズムには、臨床能力・コミュニケーションスキル・倫理的・法的理解の土台の上に立つ、卓越性・人間性・説明責任・利他主義の4つの柱が要求されます。皆さんは、「全人」となるべく、本学卒業生に相応しいプライドを有しつつも、誠実で謙虚な精神を忘れないようにしてください。世界最高レベルにある日本の現在の医療は、時代を超えて脈々とこの使命を果たしてきた多くの先達、そして本

学卒業生によって、築かれてきたものです。皆さんはこれからも多くの先輩に出会い、指導を受け、そして試行錯誤を繰り返しながら、立派な医師に育っていくことでしょう。大きな夢と高い理想を持ち、自らの資質と能力を最大限に発揮することができる「全人」として、皆さんがそれぞれの医学・医療分野もしくはその他の分野で活躍されることを祈念して、私からの「卒業生に贈る言葉」といたします。

令和5年3月

令和5年(2023年)4月1日キックオフ!! 北海道大学創基150周年事業へのご協力をお願い — 光は、北から —



第20代 北海道大学総長 寶金 清博(55期)

北海道大学医学部同窓会の皆様には、平素、北海道大学へのご理解とご協力を賜り、改めて、御礼申し上げます。

ご存じかと思いますが、令和8年、西暦2026年に、北海道大学は創基150周年を迎えます。北海道大学は1876年、日本で最初期の学位授与機関(大学)として設立された札幌農学校を前身として、以後およそ150年に及ぶ歴史の中で、力強い発展を遂げて参りました。

周年の意義は、それぞれにあります。やはり、100周年、150周年、200周年と50年の区切りは特に重要で、欧米では、150周年を非常に重要な周年と考えています。この150周年事業は、この新年度、2023年4月1日より、キックオフとなります。私の出身母体である北大医学部の皆様には、是非とも、大きなご支援をお願い申し上げます。

この場を借りて、この150周年事業に対するご理解と共感を得るため、主要な事業をご説明申し上げたいと思います。

1) 150周年事業の意義

今回の周年記念募金目標総額は、本学の規模を客観的に考え、あるいは、他の基幹総合大学の周年事業の目標金額を参考に50億円とさせていただきます。

しかし、周年事業の本来の目的は、それぞれの大学の持つ価値観(Value)を基盤として、目標を達成するためのビジョン(Vision)を示し、そのビジョンによって、大学の使命(Mission)を実現するというプロセスに「共感」してもらうことです。

寄附額は、その共感の総和として結果的に達成されるもので、周年事業は、大学の①価値観と②ビジョンと③使命を社会に示し、ご理解いただく大切な機会です。特に、本学の卒業生、関係者皆様のご理解は必須のものです。北大医学部、病院関係者の皆様には是非とも格段のご理解をいただければ幸いです。

2) 150周年事業のコンセプト

今回、私が掲げたテーマは、「光は、北から」です。光は、もちろん、北大から生まれる卓越した研究、そして、世界の課題解決に貢献する人材(グローバル・シチズン)を指します。そして、光は3原色から構成されますが、北大の光は、「サステナビリティ」「イノベーション」「ダイバーシティ」の3原色から構成されます。詳細は、本学ホームページをご覧くださいませ。

3) 主な事業

今回の150周年事業の最大の事業は、北大の次の50年を創り出す人間(イノベーション・フロント・ランナー)教育のための人材育成事業です。これは、150周年となる2026年で完結するものではなく、その後も、北海道大学で学び、研究を極める後継者を支援するための基金となります。

コミュニケーションを活性化させるため、北大を発信する新しいスタジオを設置し、メディアツールを駆使して、北大の「過去、現在、未来」を強力に発信いたします。また、メタバースなどを用いて、ヴァーチャル・キャンパスを実現させ、大学のDX化を加速させます。さらに、長期間にわたり、北大の研究や教育を地域社会や市民に広く発信するリアルなシンポジウムも継続的に実施する予定です。

キャンパスのサステナビリティを重視し、今回の事業では、新しい建物の建築は予定していません。これに代わって、カーボンニュートラル、SDGsの観点などから歴史的建造物をリノベーションし、次の150年に向けて再生させることを考えており、その代表が、皆様もよくご存じの古河講堂の改修・

利活用事業です。

以上、150周年事業の概略をご説明いたしました。私の総長としての最大の仕事のひとつがこの150周年事業を成功させることと考えております。大学のreputationが卒業生や関係者の皆様に与える影響は決して小さなものではありません。このことは、私自身が、卒業後、強く感じてまいりました。大学は、本来の教育、研究レベルを自ら高めることで、社会的評価、世界でのランキングを高めるべきものです。しかし、それには、同窓生のお力やご支援は欠かせないものです。

同窓生にとって、大学は、Love and Hate。それくらい、気になるものだと思います(北大ホームページの総長コラムNo.46参照)。是非、150周年に向かうこの3年間、北海道大学を注視していただければと思います。

今後、私の出身母体である医学系の皆様には直接お会いしてご説明する機会を賜れば幸いです。150周年事業へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

創基150周年記念事業 全体構造イメージ



令和4年度総会報告

令和4年度総会報告

令和4年度総会が、2月6日(月)午後6時30分より医学部百年記念館「大会議室」で開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された78名の会員のご冥福を祈り、黙とうが捧げられました。

総会は評議員会議長の政氏伸夫先生(65期)と副議長の橋本直樹先生(76期)の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長(48期)の挨拶があり、続いて

議長録署名人として松島理明先生(80期)及び中久保祥先生(85期)が指名されました。

協議事項では、1. 令和3年度会計収支決算として大西俊介会計理事(70期)から、収支決算状況について説明の後、審議了承されました。2. 令和3年度会計監査として橋野聡監事(58期)から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、1.令和4年度庶務・事

業報告として久住一郎副会長(60期)から、会員数の推移、諸会議開催状況、経費支援を行っている医学部学生会事業の実施状況及び新たに「医学部百年記念館の維持費支援金」について、2.令和4年度編集報告として矢部一郎編集理事(67期)から、同窓会新聞及び同窓会員名簿の編集・発行状況について、3. 令和4年度会計収支中間報告として大西会計理事から、収支状況について、4. 令和4年度フラテ研究奨励賞選考結果と

して大場雄介理事(同賞選考委員)(72期)から、選考経緯及び選考結果についてそれぞれ報告されました。

総会終了後に、令和4年度フラテ研究奨励賞授賞式が大場雄介理事の司会により執り行われ、中久保祥氏(85期)、久田諒氏(86期)、釜場大介氏(87期)、石尾崇氏(87期)、今福恵輔(88期)に浅香会長から表彰及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。(事務局記)



浅香会長のあいさつ



政氏議長の開会あいさつ



浅香会長とフラテ研究奨励賞受賞者

令和4年度総会資料

令和3年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算書

令和4年3月31日				
項目	予算額	決算額	差額	実行率(%)
会費収入	20,500,000	20,733,000	233,000	101
コンビニ収納		16,263,000		
口座引落		650,000		
銀行振込		1,090,000		
郵便振替		2,730,000		
事業関連収入	210,000	170,000	△40,000	81
広告収入	210,000	170,000	△40,000	81
雑収入	951,000	1,010,089	59,089	106
利息収入	1,000	89	△911	9
保険事務費	950,000	1,010,000	60,000	106
当年度収入額	21,661,000	21,913,089	252,089	101
前年度繰越額	9,878,913	9,878,913	0	100
収入合計額	31,539,913	31,792,002	252,089	101

<支出(円)>

項目	予算額	決算額	差額	実行率(%)
事業費	11,582,000	11,247,898	△334,102	97
総会・第98期生歓迎会	800,000	0	△800,000	0
新聞・会誌印刷費	5,000,000	5,203,903	203,903	104
刊行物送付費	2,200,000	2,240,152	40,152	102
記念品費	150,000	200,000	50,000	133
大学支援助成費等	50,000	111,342	61,342	223
ホームページ維持・更新費	237,000	247,720	10,720	105
研究助成費(フラテ賞)	1,080,000	1,092,741	12,741	101
学生表彰費(会長賞)	110,000	90,000	△19,100	82
会員登録システム改修費	1,820,000	2,029,500	209,500	112
消附者感謝状制作成費	135,000	32,450	△102,550	24
総務費	10,215,000	9,728,697	△486,303	95
人件費	5,100,000	5,012,133	△87,867	98
諸保険事業主負担	955,000	840,808	△114,192	88
諸謝金	30,000	30,000	0	100
会議費	330,000	223,422	△106,578	68
渉外費	50,000	4,832	△45,168	10
旅費交通費	150,000	63,850	△86,150	43
印刷費・会費請求書作成費	2,160,000	2,315,595	155,595	107
通信費	330,000	268,146	△61,854	81
消耗品費	220,000	198,034	△21,966	90
備品購入費	300,000	190,488	△109,512	63
通信手数料	590,000	581,389	△8,611	99
その他	0	2,000,000	2,000,000	—
特別会計へ繰入	0	2,000,000	0	—
予備費	100,000	0	△100,000	0
当年度支出額	21,897,000	22,976,595	1,079,595	105
収支差額	9,642,913	8,815,407	△827,506	91

次年度繰越額(①-②=③)

令和3年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計決算書

令和4年3月31日						
銀行名	預金の種類	令和2年度(03.3.31)預金額	期間受入額	期間利息	令和3年度(04.3.14)預金額	備考
三菱UFJ信託銀行	定期預金	9,541,149	—	161	9,541,310	
三井住友信託銀行	定期預金	10,133,117	—	170	10,133,287	
北洋銀行	定期預金	9,050,043	2,000,000	588	11,050,631	
北洋銀行	普通預金	2,758,787	2,000,000	33	4,758,820	※奇附金受入口座
合計		31,483,096	4,000,000	952	35,484,048	

奇附金受入 令和3年7月 宮崎寿美様 他1名 計 2,000,000円

令和3年度 会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会監事として、会則第10条第4項の規定に基づき、令和3年度会計収支決算状況の監査を実施した。

監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適切かつ正確に行われているものと認めた。

従って、令和3年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書のとおり正当であると認めるものである。

令和4年4月11日 監事 橋野 聡

令和4年4月12日 監事 山崎 美和子

北海道大学医学部同窓会

会長 浅香 正博 殿

令和4年度同窓会会長賞報告

本賞は、次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生を顕彰することを目的に、平成27年度に創設されました。

(1) 学業成績に対する表彰

学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れた者 3名以内

(2) 研究活動に対する表彰

学会、学会誌等で優れた評価を受けた者

(3) 課外活動に対する表彰

全国規模の競技会、コンクール等で優勝した団体の主将、または個人

(4) 社会貢献に対する表彰

ボランティア活動、人命救助、災害救援等の社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の模範となった者

(5) その他の活動等に対する表彰

その他前4号に準ずるもので、同窓会会長賞にふさわしいと認められる者

受賞者は、毎年2月に医学部長から推薦された候補者について選考し、第8回目となる令和4年度は次の6名を受賞者として決定しました。

授賞式は3月23日(木)に同窓会長から表彰楯が贈呈されました。

(1) 学業成績に対する表彰

荒川 泰晴 尾谷 雪花
池田 和隆

【授賞理由】 在学中の学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れている。

(2) 研究活動に対する表彰

寺島 祐樹

【授賞理由】 在学中に腫瘍病理学教室において熱心に研究に取り組みその成果を筆頭演者として日本病理学会総会など複数の学会で発表し高い評価を得た

依田 恵

【授賞理由】 在学中に放射線治療学教室において熱心に研究に取り組みその成果を筆頭演者として日本放射線腫瘍学会第35回学術大会で発表し高い評価を得た

土田 直司

【授賞理由】 在学中に学内外で熱心に研究に取り組みその成果の一部を筆頭演者として原著論文にまとめて英文学術雑誌に発表し高い評価を得た

第99期生を歓迎して

北海道大学医学部同窓会会長 **浅香 正博**(48期)



医学部99期の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんの卒業を心より歓迎いたします。医学部同窓会は北海道大学医学部の創設後約40年経過した1960年に発足し、現在7000名に近い数の会員から成り立っています。会員数が急速に増えたのは、2014年4月より、医学部入学時に同窓会員になっていただく制度が導入されてからです。君たち99期生は北大医学部入学と同時に同窓会

に入会してくれておりますので、同窓会はすでに身近なものになっていると思います。3年前より思いもかけなかった新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、医学部においても対面授業がオンライン授業に変更になり、臨床実習も十分なものではなく、皆さんは大変なご苦労をされたと拝察しております。このような状況にも関わらず、無事に卒業されたことに心より祝意を表したいと思います。

現在の医療は、医師を中心としたチーム医療が中心となってきております。したがって医師を中心とした多職種連携をどのように行っていくのかを常に考えることが必要です。君たちがこれから入っていく医療界は日進月歩の世界であります。したがって卒業してからもしっかりと学び続けることがきわめて重要といえます。人から感謝されることが実感できる医師という職業はやりがいのある仕事ですので、将来君たちが年を経て人生を振り返ったときに充実感を感じることができるようそれぞれがしっかりと人生設計を建てて前に進んで行っていただきたいと思います。北海道大学医学部は2019年に創立100

周年を迎えました。医学部同窓会の念願であった百年記念館も完成し、様々な展示物から北大医学部の歴史に触れることができるようになりました。100年という大きな節目を迎えたことでこれからの北大医学部の発展が皆さん方にとっても大きな飛躍につながることを期待しております。北海道大学医学部同窓会は、卒業された99期の皆さんに対し、同窓会をあげてできる限りの支援をいたしたいと考えております。なお同窓会の活動はすべて同窓会員から集めた同窓会費で賄われております。毎年の入金を忘れないようくれぐれもよろしくお願いいたします。

第99期生代表挨拶

荒川 泰璃(99期)



この度、第99期生119名が北海道大学医学部同窓会の一員となりました。僥越ながら、119名を代表し、ご挨拶申し上げます。新たな100年に向けて歩みだした本学医学部ですが、このように長い歴史と伝統を誇る同窓会の一員となることを大変嬉しく思います。医学部での学生生活を振り返りますと、講義では各分野の最前線でご活躍されている先生方からお話を伺うことができ、疾患の基本的な知識から最新の知識、そして現状の医学の限界とそ

れを打破するための方針を学ぶことができました。このことは、今後私たち一人一人が進むべき道や、果たさなければならない使命を認識するきっかけとなりました。臨床実習では、疾患や治療について実践的に学び、一人の医師として、また医療チームの一員として、一人一人の患者さんにとって最善の医療とは何か、チームの中での自身の役割とは何かを考える貴重な経験となりました。また、私たちの学生生活のおよそ半

分は新型コロナウイルスによる制限を受けたものとなりました。一部の学生は院内での実習が中止となったこともありましたが、速やかにオンライン実習へ移行するなどの対応を行っていただき、十分な実習を経験することができました。新型コロナウイルス蔓延という大変な状況の中、ご対応いただいたすべての先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。この春より私たちは医師としてそれぞれの道を歩み始めました。日々の多くの学びに喜びを感じるとともに、人命を預かる立場となったことに身が引き締まる思いです。私たちに求められる役割は、単に医師として目の前の患者さんに向き合うことに限定されません。本学の理念である「フロンティア

精神」が示すように、より良い医療・社会を目指して新たな知識・価値観を創造することも私たちの大きな役割と認識しています。本学で培った「フロンティア精神」と「国際性の涵養」を胸に、第99期生一丸となって活躍できるよう邁進して参ります。諸先生方にはこれから先も様々な場面でお世話になることと存じますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、北海道大学医学部同窓会のさらなる発展と諸先生方の益々のご活躍を祈念して、入会のご挨拶とさせていただきます。

第99期生名簿(119名)

青井 夏帆	牛田 晃太郎	小澤 隼	木次谷 真由	近藤 優里奈	竹部 温子	林 佐保	松波 宏汰	吉田 尚平
藤田 隆晟	内田 悠晶	尾谷 雪花	紀田 貢三	雑賀 将	谷川 俊樹	林 凌馬	松本 侑希保	依田 恵
荒井 駿佑	内田 義之	越智 ますみ	木俣 仁	齋藤 武尊	谷口 雄一朗	原 雄大	丸井 和輝	若本 美和
荒川 泰璃	餌取 黎	鬼塚 洋之進	久木田 涼	榎原 晃大	石田 直司	萬代 高子	丸尾 美帆	和田 侑也
荒船 真由子	櫻枝 未紗	小野 有香	河野 樹	佐々木 暉	寺島 祐樹	檜山 周作	三浦 惇	渡邊 淳慈
有田 梨乃	大内 晴加	敷井 真由	小久保 悠真	佐藤 真鈴	堂本 哲	平川 萌	水島 敦基	渡邊 貴充
五十嵐 大河	大國 麟太郎	金井 美緒	兒玉 徳	眞田 大樹	徳井 秀大	廣瀬 克彦	箕作 和樹	渡邊 佑
池田 和隆	大越 康右	可児 涼真	小西 晴己	島田 浩生	中岡 佑太	藤島 京祐	宮地 駿介	
石倉 慶太郎	太田 恭輔	金子 侑平	小林 亮成	清水 晶帆	長澤 佑	古岡 倫太郎	村下 太一	
伊勢谷 直隆	大西 元	川井 直久	小林 達矢	新堂 大我	中駄 勇太	堀川 輝久	村田 達弥	
磯崎 大希	小笠原 究	川上 翔太郎	小松 大我	須藤 ゆきほ	中村 恒星	真島 慧太	室原 健人	
岩佐 拓真	岡村 みのり	菊地 すみれ	小宮山 仁	須山 力	成田 遥紀	町 隆靖	家城 英佳	
上島 優太郎	小川 晋平	岸浪 建	今 杜王	高橋 巧宅	西山 剛史	松井 拓弥	山田 芳郎	
上羽 駿	奥野 光貴	岸部 丞	近藤 健太郎	武田 真太郎	畑 宗一郎	松川 暁則	吉田 魁人	

第105期生代表ご挨拶

鷹橋 幸一郎(105期)



この度、北海道大学医学部医学科に入学させていただきました。第105期生代表の鷹橋幸一郎と申します。歴史と伝統のある学校で六年間医学を学ぶこととなり、大変うれしく思います。遡ること三年前、私たち105期生の高校生活は新型コロナウイルスによるパンデミックと同時にスタートしました。登校できず、同級生と会えない日々が続いたり、慣れないオンライン授業を受けたり、部活の大会がなくなってし

まったり、様々な困難があったと記憶しております。私自身、出場を予定していた関東高等学校スキー大会がなくなってしまい、非常に悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし現在、世界中の様々な人々の努力のおかげで新型コロナウイルスは終息を迎えつつあります。日本では、令和5年5月8日から感染症法上の位置づけが五類感染症に引き下げられ、マスクの着用も個人の判断に任せられるこ

とになりました。少しずつ元の日常へ戻っていく中、北海道大学医学部の学生という新たな門出を迎えられたことをうれしく思うとともに、勉学やサークルなどの大学生活への期待に胸を膨らませ、わくわくした気持ちでいっぱいです。また、世界がこの困難に立ち向かい、ほとんど元通りの生活を取り戻しつつあるという事実は、世界中の様々な人々が手を取り合い、協力して、今世界中にある別の困難にも立ち向かっていくことができることの証明になっていると私は思います。そして現在、主に医療の分野でまさに困難に立ち向かい、ご活躍なさっている北海道大学医学部の先輩方の背中を見ながら、私もそのよ

うな取り組みに協力していける医師になれるように、六年間学び、成長していきたいと強く思います。



令和5年4月 1年次入学者名簿(90名)

Table with 12 columns: 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校. Lists names and alma maters of 90 students.

令和5年4月 2年次進級者名簿(10名) ※総合教育部から移行

Table with 10 columns: 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校. Lists names and alma maters of 10 students.

令和5年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

Table with 10 columns: 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校, 氏名, 出身校. Lists names and alma maters of 5 students.

教授退任のご挨拶



北海道大学 保健センター 橋野 聡 (58期)

「若くなくても留学してみよう」 2023年3月31日をもって長年にわたりお世話になりました北大を定年退職します。私は1982年に北大医学部を卒業して北大第三内科に入局した北大58期です。大学院に入らず、医員・研究生の立場で臨床もしながら基礎研究をしていたので、学位は卒業から12年目に取得しました。それから3年後の1997年5月に、浅香正博教授と今村雅寛先生に

ご配慮を頂き、助手を退職し、ミネソタ大学がん研究センター B.R.Blazar教授の研究室に2年間留学させて頂きました。既にその時39歳でした。 大学を退職扱いにして頂いたこと、安田記念海外派遣賞が当たったこと、Blazar教授が私のためにグラントを獲得してくれたことから、他の海外留学生よりも経済的には安定しており、女房と5歳の息子、3歳の娘の4人家族でしたが生活費で困ることはありませんでした。大学のあるミネアポリスは北アメリカ大陸のほぼ中央にあり、夏は東京並みに暑く冬は旭川並みに寒い内陸的気候でした。当時、Blazar教授の研究室はポストクやテクニシャンを含める

と総勢20人以上の大所帯で、マウスを用いた基礎実験を猛烈にしていました。留学前の日本では朝から夕まで臨床をして、空いた時間や土日・深夜を利用して実験をするという環境でしたので、朝は早かったです。平日8時-17時の研究生生活は夢のようでした。ポーランド出身の女性ポストクとペアを組み、実験三昧の日々を送りました。2年間の成果はfirst co-authorで米国血液学会誌「Blood」に1編のみというやや寂しい結果でしたが、家庭で過ごす時間がたっぷり取れ、家族の絆を日々実感していました。週末にはミネソタ州の名所を巡り、休暇中はアメリカ各所の国立公園巡りに没頭しました。女房と2人の子

供たちは英会話に不自由することもなくなり、子供たちは帰国後の大学進学の際に役立ちました。 マウスは英語を喋らないので、私は結局、最後まで英会話に苦労しましたが、若くない方にも異文化の中で生き抜く力を養うため、家族の結束を確認するため、是非海外留学を計画下さい。ダーウィンが言ったように、最後まで生き残るのは、賢いものでも強いものでもなく、変化に対応できるものなのです。最後に、北海道大学医学部同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

教授就任のご挨拶



北海道大学大学院 医学研究院社会医学系部門 法医学教室第7代教授 的場 光太郎 (81期)

本年3月1日付で北海道大学大学院医学研究院社会医学系部門法医学教室第7代教授を拝命いたしました的場光太郎と申します。謹んで新任の挨拶を申し上げます。法医学教室は1923年に開講し、山上熊郎先生、上野正吉先生、斎藤銀次郎先生、錫谷徹先生、高取健彦先生、寺沢浩一先生のもとで発展し今日に至っています。 私は旭川出身で旭川東高校卒業まで

旭川で過ごし、平成11年に北海道大学医学部の入学に伴い札幌に参りました。平成17年に大学院に進学してから一貫して法医学を専門として実務・研究を行っております。先代の法医学教室教授であります寺沢浩一先生には法医学者としての基本をご指導いただきました。 法医学分野は全国的に人材不足が問題となっており、北海道内でも法医学専攻の医師は4名のみで、私が大学院に在籍中の18年前の7名から減少の一途を辿っています。近年、政府の方針により死因究明の推進が決定されたことで司法解剖数が3～4倍に増えており、法医学専攻の医師の負担が激増している状況です。当教室でも2017年に司法解

剖数が全国で一番多くなってから現在までその数は増減があるものの400件近い解剖を実施しております。これから益々法医学専攻の医師の活躍が望まれることになり、その育成は喫緊の課題となっております。私はその解消に向け積極的な法医学者の育成が使命と感じております。 法医学の研究の面では、近年の分析機器の進歩によりCT検査による死後画像診断や質量分析装置を用いた迅速で高感度の薬物検査などが目覚ましく発展しており、当教室でも導入して研究を行っています。また、それらを用いて法医学だけでなく北大病院の院内Aiや医療安全、救急医療などに協力さ

せて頂いており、幅広く活用しております。今後も各専門分野の教室や病院との協力関係を強固なものにして、本学の発展に寄与できるよう精進する所存でございます。 本年5月で当法医学教室は開設100年を迎えます。その歴史と伝統を受け継ぎ、法医実務で社会に貢献し、後進の法医学を専攻する医師を育成することで、次の100年の礎となるように努力して参りたいと思います。同窓会の諸先輩、諸先生におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



訃報 名誉教授 松本 脩三先生(30期)を偲んで

北海道大学大学院
医学研究院小児科学教室 教授 **松本 脩三**(61期)

北大名誉教授の松本脩三先生が、令和5年2月16日にご逝去されました。享年92歳でした。松本先生は昭和22年に札幌第一中学校を4学年で修了、昭和25年に北海道大学予科を修了、そして昭和29年に北海道大学医学部医学科を卒業しました。1年間の実地修練を経て昭和30年に医師免許を取得。昭和34年に医学博士を授与されました。学位論文のタイトルは「小児期諸種疾患時における血清蛋白分層像の臨床的意義」

です。松本先生は昭和34年に北海道大学医学部助手(小児科学)に就任。昭和41年に米国ハーバード大学医学部小児科に留学され、昭和43年に小児科講師、49年に助教授、54年に北海道大学医学部小児科の第4代教授に就任されました。平成6年に北大を退官されたのちは東日本学園北海道医療大学の教授、平成10年から3年間、日本赤十字社血漿分画センター所長を務めました。松本

先生は数多くの学会に所属され、役員として活躍されました。

松本先生はハーバード大学留学以来、一貫して原発性免疫不全症の研究をされました。平成3年にはトマムにおいて、原発性免疫不全症WHO国際ワークショップを開催されました。また北大在任中に手がけた重症複合型免疫不全症の一つであるADA欠損症に対する遺伝子治療を、退任後も松本先生ご自身が設立に尽くされた北大遺伝子治療講座において継続されました。これは国内初の遺伝子治療プロジェクトとして国内外の注目を浴びました。

松本先生は私が医学部に入学した昭和54年に小児科教授になられ、私たち学生は、大変格調の高い教育を受けま

した。医学部4年生の小児科の第1回系統講義では、小児の発達と栄養について玄妙な奥義を明かされ、それは私の人生を決定づけました。松本先生には数え切れぬほどの医局員がお世話になり、彼らは内外に羽ばたき、また戻りつをするにより、北大小児科の確固たる地位が築かれてきました。現在、北大小児科の同門会「扶幼会」は会員約500名を擁し、日本を代表するものです。多士済々の面々が方々で活躍していますが、その多くは松本先生に育てていただいた弟子たちです。

以上、先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なる貢献に感謝申し上げます。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



訃報 名誉教授 菅野 盛夫先生(38期)を偲んで

札幌医科大学医学部
細胞生理学講座 教授 **菅野 盛夫**(60期)

令和4年10月24日、名誉教授菅野盛夫先生がご逝去されました。享年85歳でした。

先生は昭和37年3月に北海道大学医学部医学科を卒業され、1年の実地修練をへて北海道大学医学部薬理学講座で学位研究に取り掛られました。昭和42年3月に大学院を修了され医学博士を取得されました。昭和42年4月から昭和51年4月まで武田薬品工業株式会社研究開発本部生物研究所に属されて、研究員、専門研究員、主任研究員を歴任されて

おります。この間、昭和47年1月から1年余、米国ミネソタ大学医学部薬理学教室(神経薬理研究室)に留学されております。

昭和51年4月、新設された北海道大学医学部第二薬理学講座の初代教授に就任されました。北海道大学大学院委員、北海道大学評議員などを歴任され、平成12年3月に定年退職され、名誉教授の称号を授与されています。

先生は、大学院でチアミン・アルキル・ディサルファイド誘導体の心筋収縮力

増強作用の研究に従事されました。これは、ビタミンB類の強心作用を解明した先進的な研究でした。さらに武田薬品の研究所において創薬研究に従事され、β受容体遮断薬の開発、抗消化性潰瘍薬の開発、抗アレルギー薬の開発、胆道弛緩薬の開発に従事されました。一方、ミネソタ大学では蝸牛神経節細胞に膜電位固定を行い、アセチルコリン誘発電流のpHおよびカルシウム依存性に関する研究で業績を挙げられております。

北大に戻られてからは、心臓、血管に対する受容体やイオンチャネルなど作用薬の薬理学的研究を展開されました。カルシウムチャネル作用薬の薬理学特性の解明、抗不整脈薬とイオンチャネルの相互作用の検討、心筋α受容体

およびヒスタミン受容体による陽性変力作用の解明を多くの講座のメンバーとともに推進されました。さらに、病態に対する薬理学的アプローチも手掛けられ、心筋虚血と興奮伝導異常、糖尿病病態における心血管系反応の変化、血管内皮機能と病態の関連、神経細胞イオンチャネルの機能と病態に関する研究を幅広く行っております。

平成11年には日本薬理学会年会を主宰されました。教室出身者の中には、5名の医学部教授を輩出されております。

先生の多大なる功績に敬意を表し、深く感謝いたします。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



令和4年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長
渡邊 雅彦(会員2)

令和3年度フラテ研究奨励賞には13件の応募があり、各委員が事前に応募者全員の研究業績を審査し、昨年12月6日に開催した選考委員会で、研究業績、研究計画の発展性等について多様な観

点から審査を行った結果、次の5名を受賞者として決定しました。

授賞式は本年2月6日に医学部百年記念館で行い、浅香正博同窓会長(48期)から表彰楯及び研究奨励金が贈呈され

ました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員(応募の年度末で40歳未満)に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設されたものであります。平成15年度

の第1回から数えて第20回となる今回の受賞者を含めてこれまでに83名の方々に顕彰し、その多くが受賞後も輝かしい研究業績を挙げています。



北海道大学
医学研究院
呼吸器内科学教室
中久保 祥
(85期)

研究課題：北海道大学病院におけるCOVID-19診療経験から導きだされた一連の臨床研究

この度は、荣誉あるフラテ研究奨励賞を授与していただいたことに心から御礼申し上げます。北海道大学院では2020年4月よりCOVID-19患者の診療を担っており、私はその診療責任者を務めて参りました。本研究は、「COVID-19疑い患者と確定患者の臨床的特徴の比較検討」「重症COVID-19患者に用いられるImmunomodulators(トシリズマブとバリシチニブ)の効果の比較

検討」「Immunomodulator使用患者におけるレムデシビルの有効性の検討」の3つのテーマを含んでいます。いずれも臨床現場におけるクリニカルエッセンスを臨床研究に昇華させたものであり、PCRの資源が限られた流行当初における疑い患者の診療や、重症者を含めた多くのCOVID-19患者の診療など、呼吸器内科が積極的にCOVID-19診療に携わってきた経緯があったからこ

そ生み出すことのできた研究です。精力的に研究に携わり執筆もしてくれた児島裕一先生をはじめ、COVID-19診療と研究に尽力した当科の若手医師達、そして今野教授に感謝いたします。今後も積極的な研究活動を心がけてまいります。



北海道大学病院
リウマチ腎臓内科
久田 諒
(86期)

研究課題：全身性エリテマトーデスにおける新規治療標的の同定

この度はフラテ研究奨励賞という大変名誉のある賞を頂戴致しまして、身に余る光栄です。私は2019年から2022年までボストンのBeth Israel Medical centerへ留学に行き、全身性エリテマトーデス(SLE)におけるT細胞の働きについての研究を行いました。COVID-19パンデミックに伴うラボのロックダウンなど紆余曲折ありましたが、最終的にGlutaminase 2(GLS2)とNAD-dependent deacetylase sirtuin-2(SIRT2)という二つの新たな治療標的を発見致しました。これらの遺伝子を制御することで、SLEにおけるT細胞の機能異常が正常化し、将来の新規治療に繋がることが期待されます。

留学中に研究のご指導を頂いたGeorge C. Tsokos教授に深く感謝を申し上げます。

留学中に研究のご指導を頂いたGeorge C. Tsokos教授に深く感謝を申し

上げます。そして、大学院卒業後にこのような留学という貴重な機会を頂きまして、渥美達也教授、免疫代謝内科学教室の皆様へ改めて心から御礼申し上げます。この賞の名に恥じないよう、今後も精進してまいりたいと存じます。この度は誠に有難うございました。



北海道大学大学院
医学研究院
血液内科学教室

石尾 崇
(87期)

研究課題：CRISPR/Cas9スクリーニングによって同定された成人T細胞性白血病/リンパ腫の新規治療分子標的

この度は令和4年度フラテ研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。このよう

な機会を与えて頂きました選考委員ならびに同窓会の先生方、事務局の皆様により御礼申し上げます。

本研究では、成人T細胞白血病/リンパ腫(Adult T-cell leukemia/lymphoma, ATLL)に対して新規ゲノム編集技術であるCRISPR-Cas9を用いてゲノムワイドの網羅的ノックアウトスクリーニングを行い、細胞周期のG1-S期移行に関わるCyclin dependent kinase 6(CDK6)と細胞増殖に関わるmTORC1経路が、ATLLの治療標的となる必須遺伝子であることを同

定しました。この結果を踏まえて、我々はCDK4/6阻害薬(パルボシクリン)がATLLの細胞周期進行を抑制してアポトーシスを伴う細胞毒性をもたらすことを、細胞株とマウスモデルを用いて示しました。さらに、CDK4/6阻害薬への反応性が弱いTP53異常を有するATLLに対しても、mTORC1阻害薬(エベロリムス)を併用することでRbタンパクのリン酸化を著明に抑制し、相乗効果による細胞毒性をもたらすことを突き止めました。これらの知見は他の悪性腫瘍にも波及効

果が期待でき、将来的に臨床応用されることを望んでおります。

最後になりますが、本研究の機会を与えて頂きました血液内科学教室の豊嶋崇徳教授をはじめ、研究のご指導を頂きました中川雅夫先生、ならびに共同研究者の皆様により御礼申し上げます。そして、本研究にご協力頂きました患者様と当科教室員の皆様により感謝いたします。今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



北海道大学病院
整形外科

空場 大介
(87期)

研究課題：高純度硬化性アルギン酸ゲルと幹細胞を用いた椎間板再生治療法の開発

この度は、伝統ある令和4年度北海道大学医学部同窓会フラテ研究奨励賞を

賜り、大変光栄に存じます。浅香正博同窓会長をはじめ、本賞選考委員の先生方ならびに同窓会の諸先生方に深く御礼申し上げます。

本研究は、当教室で独自開発した高純度硬化性アルギン酸ゲルと組織再生能を有する骨髄由来間葉系幹細胞または骨髄濃縮液を併用した椎間板再生治療法の開発を目的としたもので、動物モデルを用いた変性椎間板を対象とした性能評価試験を実施し、分子機構に立脚した組織再生機序およびゲル圧縮

における力学的安定性を証明しております。人体最大の無血管組織の一つである椎間板は、その組織学的特性から変性や欠損が生じると自然修復しないとされています。日常生活や社会活動に障害を来す腰痛症に代表される椎間板障害においては、組織再生を目的とした根本的治療法の開発が長期待されてきました。本研究はこの再生治療法を実現に近づける革新的な研究であり、現在実施しております探索的医師主導型試験を経て近い将来での上市を

目指しております。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたりご指導賜りました整形外科教室の岩崎倫政教授、須藤英毅特任教授、また椎間板グループの諸先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みとしてより一層研究活動に邁進したいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



北海道大学病院
皮膚科

今福 恵輔
(88期)

研究課題：タイトジャンクションに注目したアトピー性皮膚炎リド化合物の探索

フラテ研究奨励賞を拝受し、選考委員および北大医学部同窓会の諸先生方

に御礼申し上げます。またこれまで指導していただいた岩田浩明講師(現岐阜大学皮膚科教授)や夏賀健准教授、氏家英之教授に感謝申し上げます。今回私が注目しているタイトジャンクション(TJ)は皮膚の最外層に位置し、体外へ水分蒸散を防いでいます。TJ構成分子のうち、クローディン(CLDN)ファミリーは、TJストランドを形成する膜タンパクであり、中でもCLDN1が皮膚で最も高発現しています。実験動物においてCLDN1発現量が低下するに

つれてより重症なアトピー性皮膚炎(AD)が発症し、ヒトでもADの小児、成人患者でCLDN1が低下します。これらの事実より、CLDN1の発現を促す化合物によりADの治療が可能と考えます。本研究ではCLDN1の発現を促進させるリード化合物をスクリーニングし、ADを対象とした前臨床試験を目指します。ADに対する薬剤は近年数多く開発されています。従来のAD治療薬は副腎皮質ホルモン剤、カルシニューリン阻害剤、JAK阻害剤などの免疫抑制による炎症

を制御するものが主でしたが、副作用として感染症を引き起こす問題点があります。一方でCLDN1の発現調整には免疫抑制は伴わないため、副作用の少ない全く新しい作用機序による薬剤が開発可能です。最後になりますが、この受賞を励みにこれからも研究活動に邁進したいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!

《フラテ賞》

- ・令和5年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに83名の方々が受賞しています。
- ・第21回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

《授賞件数等》

- ・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

《応募資格、募集期間等》

- ・応募資格 令和5年度末(令和6年3月31日)現在、40歳未満である本会会

員で会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。

- ①北大学医学部医学科を卒業した者
- ②前号以外の北大大学院医学研究院または北大大学院医学院を修了した者(応募する年度末までに修了見込みの者を含む)で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ③第1号以外の北大医学研究院の教員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ④第1号以外の北大病院の教員または医師で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者

※申請書提出時において会費未納の方がおられますので、ご注意ください。

《応募書類等》

- ・応募書類(申請書、推薦書、業績別刷)の提出部数は6部(コピー可)とします。応募書類は一切返却しません。
- ・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書きし、郵送または持参すること。
 - ①郵送は必ず「簡易書留」としてください。10月31日までの消印のあるものは有効とします。
 - ②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。
 - ③郵送(持参)先
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北大医学部内
北海道大学医学部同窓会事務局
- ・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学部同窓会で検索して、左上部の

Contents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会 検索

《選考結果の発表、授賞式等》

- ・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- ・授賞式は、令和6年2月に開催する同窓会総会で行う予定です。
- ・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
- ・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合わせください。
電話 : 011-706-5007
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

令和4年度 医学研究院・大学院医学院・医学部医学科各賞受賞者

特別賞受賞



ようてい小児科
アレルギー科
クリニック 院長
崎山 幸雄
(43期)

【社会的貢献名】

国内初の遺伝子治療臨床研究

この度、北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科令和4年度「特別賞」を授与頂き、大変光栄

に存じます。

受賞対象の遺伝子治療臨床研究は1991年、松本脩三北大教授が主催したトマムでのWHO原発性免疫不全症ワークショップで米国NIHのDr.M.Blaeseらがヒトへの最初の遺伝子治療を報告したことが契機でした。1993年、ADA欠乏重症複合免疫不全症における遺伝子治療臨床研究計画を厚生省、文部省に提出、インフォームドコンセント、レトロウイルスベクターの安全性などに審

査が重ねられて、1995年に了承されました。末梢血T細胞にADA c DNAを導入、培養増殖後に投与を11回反復し、副反応は認められず、明らかな臨床効果を認めて、1997年に終了しました。1999年、松本脩三北大名誉教授ご夫妻の篤志で寄付講座「遺伝子治療講座」が開講、2004年までに新規レトロウイルスベクター (Onodera,1998) を用いて酵素補充療法を中止後に骨髄血CD34陽性細胞に遺伝子導入、新規の治療をしました。

遺伝子治療を受けた二人は現在、社会人と大学院生、ご家族の本臨床研究

に関するこれまでのご協力に心から感謝します。本研究の全過程を指導、支援して頂いたDr.M.Blaese、松本脩三北大名誉教授、大浦武彦先生初め歴代北大病院病院長、学内外審査委員など多くの関係者、共同研究者：有賀正北大名誉教授、小野寺雅史先生 (現国立成育医療センター遺伝子細胞移植センター長)、大津真先生(現北里大学)、北大小児科免疫グループのスタッフに深謝申し上げます。

優秀研究賞受賞



北海道大学大学院
医学研究院
病原微生物学教室 教授
福原 崇介
(会員2)

【研究業績名】

次々に出現するSARS-CoV-2の変異株の包括的解析

この度は名誉ある令和4年度北海道大学大学院医学研究院優秀研究賞を賜り、大

変光栄に存じます。本選考に関わって下さった方々に心より御礼申し上げます。

SARS-CoV-2のパンデミック時には、次々に新しい変異株が出現し、ワクチンからの逃避によって流行が長期化しました。我々は、新型コロナウイルスの人工合成を効率的に行う新たな技術を開発しました。その結果、様々な組換えウイルスを迅速に作製することができ、次々に出現する変異株における変異の意義の解明を大きく推進させる

ことができました。具体的には、デルタ株、オミクロン株 (BA.1株、BA.2株、BA.5株)の解析を次々に行って、NatureやCellといった雑誌に発表することができました。素早く発表するという意識を、研究を推進する中で、我々が開発した技術が大きく貢献しました。

我々は、世界に先駆けて変異株の包括的解析を行うことを目的としたコンソーシアムであるG2P-Japanの中で中心的役割を担いました。具体的には組換えウイルスを迅速に作製することと動物試験を行うことが主な役割で、ウイルスの性状解析を行う中で、感染させ

るウイルスの準備をして病原性を明らかにするという最も重要な役割を担当しています。このことから、本邦から新型コロナウイルスの変異株の性状解析結果を迅速に発表するという研究に大きく貢献してきたと言えます。

今後も当研究室では新興再興ウイルス感染症の研究、特に感染症対策に有用な研究を積極的に推進したいと考えております。今回の受賞に恥じないような研究を続けていく所存です。

優秀教育賞を受賞して



北海道大学大学院
医学研究院 医学教育・
国際交流推進センター 教授
高橋 誠
(会員2)

【教育業績名】

コロナ禍における医学教育継続と医学教育分野別評価認定への貢献

本邦において令和2年2月下旬から

感染拡大した新型コロナウイルス感染症により、教育機関では対面講義や実習の中断を余儀なくされ、全国の医歯大学で医学教育を継続できない未曾有の状況に陥りましたが、本学科では、ICTを活用したオンライン授業の実施環境を早急に構築するとともに、北大病院臨床実習ガイドラインの策定と実習学生向けの新型コロナ感染症に関するeラーニングシステムを構築することで、

コロナ禍においても本学科の医学教育を継続することができました。

また、本学科の医学教育の質を社会に向けて保証するため、そして卒業生が米国ECFMGの受験資格を得るため必須であった医学教育の国際認証の取得に関して、コロナ禍の中、医学部FDの企画実施、国際認証受審ワーキンググループでの自己点検評価報告書の取りまとめ等の準備を経て、令和3年度に医学教育分野別評価を受審し、令和4年10月に7年間の認定を受けることができました。

以上の取組における私の活動に対して、このたび、名誉ある北海道大学大学院医学研究院・医学院・医学部医学科「優秀教育賞」の令和4年度受賞者としてご選出いただいたことは、誠に光栄であり、医学研究院長の畠山鎮次先生をはじめ選考委員会の諸先生方に深く感謝を申し上げます。引き続き本学科の教育システムをより良くする活動に努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

優秀論文賞受賞



北海道大学病院
呼吸器外科 医員
新垣 雅人
(79期)

【論文題目】

Repeated photodynamic therapy mediates the abscopal effect through multiple innate and adaptive immune responses with and without immune checkpoint therapy

【掲載雑誌】 Biomaterials

この度は優秀論文賞に選考いただき、大変光栄に存じます。選考委員ならび

に関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本論文は2019年よりカナダのトロント大学に留学した際に取り組みしておりました胸部悪性腫瘍に対する光線力学的治療 (PDT) に関連する研究になります。悪性腫瘍に対する放射線治療後にはアブスコパル効果と呼ばれる非照射野の遠隔転移腫瘍に対する抗腫瘍効果が知られております。アブスコパル効果のメカニズムはまだ解明されておりませんが何らかの免疫応答が関連していることが予想されておりPDTでも同様の効果が期待されています。このためまずはPDTにてアブスコパル効果

が誘導されることをマウスモデルにて確認し、同モデルを使用してPDT後に起こる免疫学的な応答と転移巣に対する抗腫瘍効果を解析いたしました。一連の検討において、PDTでアブスコパル効果誘導するためには複数回のPDT治療が重要な要素であること、また転移巣に対する抗腫瘍効果には免疫学的な機序が大きな要因であることが示唆されました。また、現在臨床で広く用いられている免疫チェックポイント阻害剤と併用することでアブスコパル効果を増強する可能性が示唆され、この知見は今後の胸部悪性腫瘍の治療開発に貢献できる成果と考えております。

最後になりますが、留学と本研究の機会を与えてくださりました松居喜郎名誉教授、若狭哲教授そして加藤達哉

教授、またカナダでご指導いただきましたトロント大学安福和弘教授に心より御礼申し上げます。本受賞を励みに日々研鑽を重ねて参りたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



優秀論文賞受賞



北海道大学大学院
医学研究院 血液内科学教室
客員研究員
石尾 崇
(87期)

【論文題目】

Genome-wide CRISPR screen identifies CDK6 as a therapeutic target in adult T-cell leukemia/lymphoma.

【掲載雑誌】 Blood

この度は令和4年度優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。このような機会を与えて頂きました選考委員ならびに関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

本研究では、成人T細胞白血病/リンパ腫(Adult T-cell leukemia/lymphoma, ATLL)に対して新規ゲノム編集技術であるCRISPR-Cas9を用いてゲノムワイドの網羅的ノックアウトスクリーニングを行い、細胞周期のG1-S期への移行に関わるCyclin dependent kinase 6(CDK6)

と細胞増殖に関わるmTORC1経路が、ATLLの治療標的となる必須遺伝子であることを同定しました。この結果を踏まえて、我々はCDK4/6阻害薬(パルボシクリブ)がATLLの細胞周期進行を抑制してアポトーシスを伴う細胞毒性をもたらすことを、細胞株とマウスモデルを用いて示しました。さらに、CDK4/6阻害薬への反応性が弱いTP53異常を有するATLLに対しても、mTORC1阻害薬(エベロリムス)を併用することでRbタンパクのリン酸化を著明に抑制し、相乗効果による細胞毒性をもたらすことを突き止めました。これらの知見は他の悪性腫瘍にも波及効果が期待でき、特

来的に臨床応用されることを望んでいます。

最後になりますが、本研究の機会を与えて頂きました血液内科学教室の豊嶋崇徳教授をはじめ、研究のご指導とご助言を頂きました中川雅夫先生、ならびに共同研究者の皆様へ心より御礼申し上げます。そして、本研究にご協力頂きました患者様と当科教室員の皆様へ心より感謝いたします。この受賞を励みに、これからも臨床・研究ともに精進して参ります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

優秀論文賞受賞



北海道大学病院
整形外科 医員
釜場 大介
(87期)

【論文題目】

Combination of ultra-purified stem cells with an in situ-forming bioresorbable gel enhances intervertebral disc regeneration

【掲載雑誌】 eBioMedicine

この度は令和4年度優秀論文賞を賜り大変光栄に存じます。本賞に選ばいただいた選考委員の先生方ならびに関係者の方々に深く御礼申し上げます。

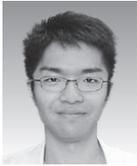
本研究は、当教室で独自開発した高純度硬化性アルギン酸ゲルと組織再生能を有する骨髄由来間葉系幹細胞を併用した椎間板再生治療法の開発を目的としたもので、臨床応用を見据え、超高純度ヒト間葉系幹細胞を島根大学(PuREC株式会社)より供与頂き、大動物を用いた椎間板変性モデルを対象と

した性能評価試験を実施し、分子機構に立脚した組織再生機序およびゲル圧縮による力学的安定性を証明しております。人体最大の無血管組織の一つである椎間板は、その組織学的特性から一度変性や欠損が生じると自然修復・再生しないとされています。変性を来した椎間板は、日常生活や社会活動に障害を来す腰痛症や神経障害に代表される椎間板障害となり、これらに対する組織再生を目的とした根本的治療法の開発が長年期待されてきました。本研究は、この椎間板組織に対する組織再生治療法を実現に近づける革新的な研究であり、これらの結果を踏まえ現

在、ヒトを対象とした探索的医師主導試験を実施しており、近い将来での上市を目指しております。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導、ご鞭撻を賜りました整形外科教室の岩崎倫政教授、須藤英毅特任教授、椎間板グループの諸先生方、また共同研究にご協力いただいた島根大学医学部生命科学講座の松崎有未教授をはじめ、スタッフの先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。この受賞を励みに今後も更なる研究活動に邁進して参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

優秀論文賞受賞



北海道大学大学院
医学研究院 免疫・代謝内科学教室 客員研究員
阿部 靖矢
(89期)

【論文題目】

Pathogenic neuropsychiatric effect of stress-induced microglial interleukin 12/23 axis in systemic lupus erythematosus

【掲載雑誌】 Annals of the Rheumatic Diseases

この度は令和4年度優秀論文賞に選出頂きて、大変光栄に存じます。

本研究では、妊娠適齢期の若年女性に多く発症する代表的な自己免疫疾患である全身性エリテマトーデスにおける難治性病態の精神神経ループスの病因の解明に焦点を当てました。ストレスは我々の生理や病態に影響を与える因子の一つですが、精神・神経のみならず免疫にも作用し、様々な疾患の発症に関与することが知られています。しかし、精神神経ループスに対する効

果は不明であり、本研究では、ストレスがその発症に与える影響について、解析を行いました。本論文では、代表的なループスモデルマウスであるMRL^{lpr}マウスに睡眠障害ストレスを与え、行動異常や脳の分子学的解析を介して、脳内細胞のミクログリア由来のインターロイキン-12/23軸が前頭前皮質ニューロンの活性化や形態変化を引き起こすことを解明しました。また、精神神経ループス患者においても、診断時の髄液中インターロイキン-12濃度が高値であるとともに、MRIで慢性期における前頭前皮質の萎縮を認め、マウスモデルとの相同性が示唆されました。

研究成果は、膠原病・リウマチ分野におけるトップジャーナルであるAnnals of the Rheumatic Diseasesに採択され、高い評価を受けました。近年、神経科学の進歩は著しいですが、臨床医学においては、unmet needsを多く抱えたフロンティアともいえる領域であり、今後も研究に邁進し、患者さんに還元できるような臨床応用を目指していきたいと考えています。

本研究の機会を与您と下さり御助言を頂きました渥美達也教授、また直接御指導頂きました遺伝子制御研究所分子神経免疫学教室 村上正晃教授に心より御礼申し上げます。

優秀論文賞を受賞して



北海道大学大学院
医学研究院 免疫・代謝内科学教室 客員研究員
狩野 皓平
(89期)

【論文題目】

Inhibitor of NF-κB Kinase Subunit ε Contributes to Neuropsychiatric Manifestations in Lupus-Prone Mice Through Microglial Activation

【掲載雑誌】 Arthritis & Rheumatology

この度は令和4年度優秀論文賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。免疫代謝内科学教室の渥美達也教授、

直接御指導いただきました河野通仁助教、また共同研究者の皆様へ心より感謝申し上げます。

本研究は代表的な自己免疫疾患である全身性エリテマトーデス(SLE)の臓器病変の一つである精神神経ループス(NPSLE)を対象としました。NPSLEは気分障害や認知機能障害、精神病性障害を呈するSLEの中でも重症の臓器病変ですが、その病態機序については不明な点が多いため、本論文では中枢神経の免疫担当細胞であるミクログリアに着目し、その病態への関与を検証しました。SLEモデルマウスからミクログリアを採取してRNAシークエンスを行い、

NPSLEの病態に重要であると考えられるミクログリアの活性化にかかわる因子として、Inhibitor of NF-κB Kinase Subunit ε (IKBKE)を同定しました。また、モデルマウスに対するIKBKE阻害薬の投与によりミクログリアの活性化および神経細胞障害は抑制され、モデルマウスの異常行動が改善することを示すことができました。本研究の成果が、NPSLEの新規治療法に繋がるよう研究を進展させていきたいと思っております。

現在はアメリカへ基礎研究留学の機会をいただき、引き続き基礎研究に取り組んでいます。本受賞を励みに、今後さらに研鑽を積んでいく所存です。



優秀論文賞受賞



北海道大学大学院
医学研究院
血液内科学教室・医員
千葉 雅尋
(90期)

【掲載雑誌】 Blood

この度は、医学部優秀論文賞を賜りまして、大変光栄に存じます。血液内科学教室の豊嶋崇徳教授、直接実験のご指導を頂いた中川雅夫先生に感謝を申し上げます。

本論文は主に成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)という難治性の疾患を対象にしたものです。先輩である石尾崇先生がATLLの生存にとって必須の遺伝子を見出すという研究を行っており

ましたので、私はATLLの免疫微小環境、特にNK細胞との関わりについて研究を行いました。NK細胞とほぼ全ての遺伝子をノックアウトしたATLL細胞を混ぜ合わせ、どの遺伝子がノックアウトされたATLL細胞がNK細胞からの攻撃を回避してよく生存しているかを調べました。その結果、CD48ノックアウトATLL細胞がNK細胞に抵抗性を示すということを見ました。このスクリーニング実験は現在ドイツに留学されている下埜城嗣先生が行って下さいました。私はin vitro/in vivoで確認実験を行い、更にATLL細胞はJAK/STAT経路

を介してCD48発現を低下させていることを見出しました。In vivoの実験については動物実験施設の武井則雄先生にご指導いただきました。CD48とJAK/STAT経路の関連の発見につながった化合物ライブラリースクリーニングの実験系の構築には薬学研究院の前仲勝実教授と乙黒聡子先生にご協力いただきました。

上記の記事から明らかのように、素晴らしい先輩方や共同研究者の先生達のご尽力により、本研究を遂行できました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

【論文題目】

Genome-wide CRISPR screens identify CD48 defining susceptibility to NK cytotoxicity in peripheral T-cell lymphomas

優秀論文賞受賞



北海道大学大学院
医学研究院
皮膚科学教室 大学院生
前田 拓哉
(91期)

cutaneous squamous cell carcinoma: A retrospective study

【掲載雑誌】

Journal of the American Academy of Dermatology

この度は令和4年度優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に存じます。

本研究は、近年様々な悪性腫瘍において病勢を反映する炎症系バイオマーカーとして注目されている好中球リン

パ球数比が、皮膚有棘細胞癌においても予後因子となり得ること、またセンチネルリンパ節生検の陽性を予測しうることを示したものです。

研究内容に関しては国内留学先であった都立駒込病院皮膚腫瘍科において先人が治療してきた症例の貴重なデータを集積し、後方視的に解析させていただきただけだったので、幸いにしてpositiveなデータが得られ、皮膚科の臨床系雑誌の最高峰であるJournal of the American Academy of Dermatologyにoriginal articleとして掲載す

ることができました。

私のような若輩にこのような機会を与えてくださった当時の部長の吉野公二先生(現:がん研有明病院皮膚腫瘍科部長)ならびに国内留学をお許しいただいた氏家英之教授に心より御礼申し上げます。

皮膚悪性腫瘍はその数の少なさからエビデンスに乏しく、まだまだ発展途上の領域ですが、今回の受賞を励みに今後も研鑽を重ねて参る所存です。

【論文題目】

Neutrophil-to-lymphocyte ratio is associated with survival and sentinel lymph node positivity in invasive

優秀論文賞受賞



北海道大学大学院
医学研究院
呼吸器内科学教室 博士課程年
児島 裕一
(92期)

respiratory status in COVID-19: A retrospective study

【掲載雑誌】 Journal of Medical Virology

この度は優秀論文賞を賜りましたことを大変光栄に思います。本研究は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)治療において免疫抑制機能を示す分子標的薬に、抗ウイルス薬であるレムデシビルを追加することの予後改善効果

を示した、2020年4月からの当院における診療記録に基づく後ろ向き研究です。指導を頂いた中久保祥先生をはじめとして、診療・論文作成にかかわった病棟スタッフおよび多くの先生方に深く御礼を申し上げます。

2019年にCOVID-19の感染が確認されて以来、その治療内容は驚くべき速度で変化しております。当院の記録を振り返ってもその治療の変遷や苦闘の歴史をまざまざと感じるところであり、同窓の先生方の多くもその診療や研究

などでご尽力をなされたことと思えます。現在のCOVID診療の状況はそのような数々の挑戦を踏み越えた後にたどり着いた場所であることを痛感する次第です。いまだCOVID-19の感染はみられつつはありますが、それでも収束に向かって着実に歩んでいることをひしひしと感じ、僭越ではありますが本論文がその礎の一部にでもなれば幸せと考えております。

【論文題目】

Combination therapy with remdesivir and immunomodulators improves

優秀論文賞を受賞して



北海道大学病院
循環器内科 助教
表 和徳
(会員2)

【掲載雑誌】 European Heart Journal

この度は大変栄誉ある北海道大学医学部優秀論文賞を賜り誠に光栄に存じます。本受賞に際して、選考委員及び同窓会の先生方、また事務局の方々へ深く感謝申し上げます。

私は平成23年に弘前大学医学部を卒業した後、北海道大学病院のプログラムで初期研修を行いました。同院では全国から集まった優秀な同期と切磋琢磨し、また情熱溢れる各科の先生方にご指導いただく機会に恵まれ、素晴らしい環境で医師としてスタートを切ることが出来ました。この研修期間中に、医師において必要な問題解決能力を向上させるには、診療の中で生じた疑問点を追求して、それを解決する能力が必要であると考え、北海道大学大学院へ進学し臨床研究を行うことになりました。大学院時代には臨床業務に従事しながら、心不全の血行動態に関する研究に取り組み平成31年に医学博士を取得し、その翌年には米国メイヨークリ

ニックに留学し、さらに研究を進展させて参りました。本研究成果はその一連の研究の一つになります。

本受賞に関しては、多くの研究の機会を与えて頂き、ご指導を下さった安齊俊久教授、永井利幸准教授をはじめ北海道大学循環病態内科学教室員、同門会の先生方、またこれまで支えて下さった多くの方々に深く感謝申し上げます。

【論文題目】

Pulmonary vascular disease in pulmonary hypertension due to left heart disease: pathophysiologic implications

フラテ祭2023の開催について

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状を見ていただくことにより、今後の抱負や課

題を認識していただくための場として、例年、北海道大学ホームカミングデーと同じ日に開催しております。

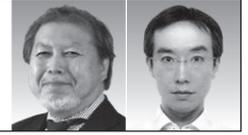
昨年度は、新型コロナウイルスの感

染が拡大している状況を鑑み、オンライン開催となりました。今年度の開催日は2023年9月30日(土)を予定しております。

詳細につきましては、同窓生の皆様へ後日お送りする予定のご招待状にて、お知らせいたします。

ズームアップ② 北大病院における専攻医の動向について

北海道大学病院 臨床研修センター センター長 **平野 聡**(64期) 副センター長 **小野澤 真弘**(75期)



北海道大学病院の専攻医の現状を報告させていただきます。まずはおさらいですが、専攻医とは、2年間の初期研修を修了した後、自らの専門分野を選択して各医療機関が定める専門医プログラムで修練中の医師を指します。専門医プログラムとは、厚労省が2018年に、乱立する学会ごとの専門医の「質の担保」を目的に設立した日本専門医機構（専門医の認定と養成プログラムの評価・認定を統一的行う機関）が認めた専門医養成のための研修のことです。なにやら難しい用語を並べましたが、平たく言うと大学病院においては専門医プログラムとは入局先の修練システムであり、専攻医はいわゆる「入局者」でありますので、北大の専攻医数といえば、北大の医局に入る新人の数のことであります。

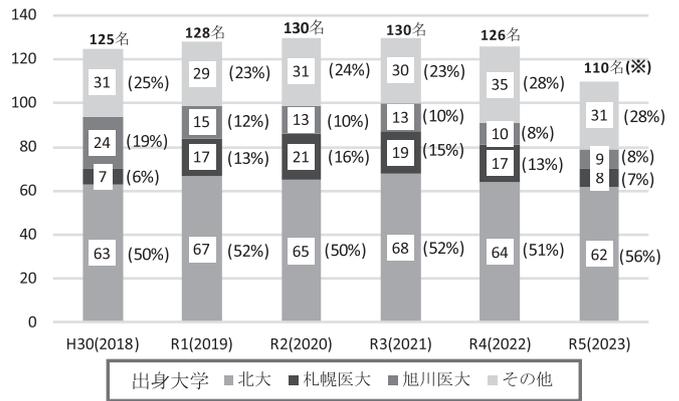
この専攻医数の重要性は、本学の各医局が北海道内に多くの関連施設をかかえ、派遣によってそれぞれの地域医療を維持していることを考えると自明であります。最近、その専攻医数の減少が問題になっており、本稿は同窓会会員諸氏にこの実態を情報提供するようにと、臨床研修センターにご指示があったものと理解しております。

実際、北大専攻医の年次推移をみるとR5(2023)年度で大きく下方に振れているのがわかります(図)。出身大学別にみると、札幌医科大学卒業生のR5年の顕著な減少と、旭川医科大学卒業生のここ数年の漸減傾向が見て取れます。これら二大学は「いわゆる地域枠」、正式には「大学独自枠」の入学者を全体の半数、あるいは8割まで増加させ、さ

らに、大学やコースに違いはあれども、おむね「独自枠」の入学者に対しては卒業大学で臨床研修を行うことや同大学で専攻医となることをルールとして定めています。北海道全体の臨床研修医や専攻医数は例年、それぞれ300名程度と大きく減少していないことを考えると、当院の専攻医数減少は道内二大学の入試枠が大きく影響した結果と判断しております。診療科別では、内科(7診療科で入局21名)と外科(5診療科で入局9名)とその減少程度は顕著であり、全国の非大都市圏で同じ傾向があります。

このような状況に対応するため、2022年に病院において診療科長などを集めた研修医・専攻医に関する意見交換会を行い、そこでの議論を経た結果として医病連絡会議の傘下に「卒後キャリアパスワーキング」を設置しました。ワーキングの目標を「専攻医数の増加、特に毎年60名程度にとどまる「自学卒業生の専攻医増加」と定めて活動を開始し、在学中から臨床研修医期間における「北大への帰属意識の醸成」を行うべくさまざまな試みを開始しております。

一方、北大卒業生が北大病院の臨床研修プログラムを選択することが、北大専攻医への確実なコースではあります。現状ではかなりの苦戦を強いられています。全国的な傾向として大学病院を研修施設として選択する研修医は減少を続け、ついに3割を切っている状況ですが、本道ではさらにこの傾向が顕著であり、北大病院の臨床研修医として採用される本学卒業生の数はここ4



図：北海道大学病院における出身大学別の専攻医採用者数(※2023年度は2次登録終了時点での数値)

年連続して10名を割り込む事態であります。

臨床研修センターではこの慢性化した減少傾向に歯止めをかけるため、学生や研修医が気軽に立ち寄れるオープンな手技・検査のトレーニングコーナーの設置、国際的医療人育成コースでは英語による医学トピックのディスカッション(Resident English Communication Club: RECC)の実施、研修医が中心となつて行う教育型CPCの開催、学会活動や英文論文作成支援など、プログラムの魅力向上のための斬新な取り組みを行っています。また、本年度から住宅手当、時間外勤務手当の支給や、大学病院では全国的にも珍しいボーナス支給が開始となったことも研修医増加の呼び水となる可能性に期待しています。全国的傾向とはいえ、これまでの北大生にとっては研修病院としての認識が薄かった北大病院プログラムは”卒後教

育の北大プログラム”として再出発し、「北大で研修しないのはもったいない」と感じてもらえるようなプログラムを目指し、臨床研修センター教員と事務職員が一丸となって日々活動を行っています。

専攻医減少や臨床研修医の大学離れの問題は、たとえ大学に在職していても直接的な影響を感じにくいのも事実です。しかし、現状のままではボクシングのボディブローのように知らず知らずのうちにダメージが蓄積し、近い将来において北大にあるいは本道の医療全般に大きな損失をもたらす可能性を強く懸念するところでもあります。本稿により同窓会会員の皆様にもご認識を新たにいただき、忌憚なきご意見やご助言など賜れましたら幸いです。

ズームアップ③ 医学院にMBA特別コース設置

おおほ ふうすけ **大場 雄介**(72期)



令和4年度、医学院にMBA特別コースが設置されました。これは、小樽商科大学のビジネススクールであるアントレプレナーシップ専攻との連携によるものです。

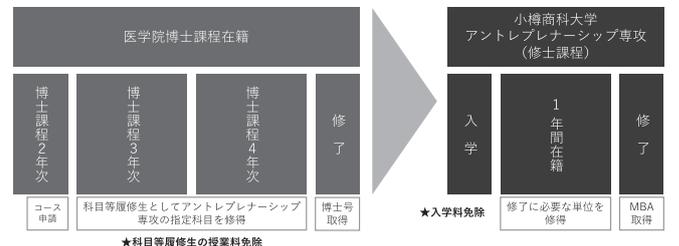
MBAではmaster of business administrationの略で、日本語では経営管理修士号あるいは経営学修士と呼ばれる学位です。経営学の専門職大学院修士課程(いわゆるビジネススクール)を修了すると本学位が授与されます。

MBAは、ビジネスリーダーに必要とされる、経営資源(いわゆるヒト・モノ・カネ)の管理はもちろん、経済学や法律学、組織行動論や人的資源管理(リーダーシップ・マネジメント)、経営戦略等の論理思考力や分析力、問題解決能力などの多彩なスキルが身につけられます。そのため、現在幅広い分野で、組織運営管理人材として着目されております。

海外の一流大学、例えばHarvard大学、

Stanford大学、UCLA等では、あたりまえのようにMD-MBAコースが設置されていますが、本邦においては、医学研究科等とMBAとの連携は初めての試みです。その後、藤田医科大学医学研究科で病院経営学・管理学専攻の設置が発表されました(令和5年度から学生募集を開始)。これは本学のMBA特別コースのように本科の履修と連携したものとは異なり、病院経営人材育成に特化した、独立の専門職大学院です。本学では工学院、保健学院に続き3例目の連携です。

具体的募集対象は博士課程2年次学生になります。コースの定員は毎年若干名、1~2名を想定しております。応募してコース履修が許可された学生は翌年度と翌々年度、すなわち3年次と4年次の2年間かけて、小樽商大の札幌サテライトキャンパスで座学を受講して単位を取得します。この2年間において、MBAの1年時に履修する科



小樽商科大学との大学院連携によるMBA(経営管理修士)特別コース(履修イメージ) MBA(経営管理修士)の学位取得には、本来、修業年限が2年間であるが、1年次に履修が必要な科目を北大在籍時に科目等履修生として履修することにより、小樽商科大学入学後に1年間の在籍期間で残りの必要科目を履修し、修了することが可能。本来、小樽商科大学に2年間在籍が必要となること、1年間の在籍で修了可能なため、1年分の授業料(60万円程度)が節約可能。コースの定員は年度ごとに1~2名程度を想定。

目を学修することとなります。医学院終了後、小樽商大のビジネススクールの2年時に編入し、修了後MBAを取得します。履修イメージの詳細は図を参照ください。

このように、就業年限に1年プラスするだけ、すなわち通常より1年短縮してMBAを取得できることに加え、医

学院在籍時のビジネススクールの授業料、またビジネススクール入学時の入学料も免除となります。すなわち所要経費は医学院終了後の1年分の授業料(60万円程度)のみです。アメリカ、例えばハーバードのビジネススクールでは、MBA取得に1千万円程度要すると言われております。

金銭的なメリット以外にも、すでに述べたようにMBAコースでは多岐にわたるスキルが醸成できます。コロナ禍を経てマネジメント力のある医師の必要性がクローズアップされたかと思えます。今後、さらに多様な医療系人材

輩出へと拡大されることを期待しています。また、岸田首相により昨年からスタートアップ元年であると位置づけられ、起業機運が高まってはおります。しかし、スタートアップへの出資元の一つであるベンチャーキャピタルには、

まだまだ医療系に明るい人材は多いとは言えず、医師のキャピタリストは数えるほどです。社会的なニーズにもマッチしています。

初年度は協定締結から募集までの期間が短く、周知を行き渡らせることが

できず、残念ながら応募者はゼロでした。同窓の先生方にはぜひキャリアプランの一つとして積極的に応募あるいは推薦をお願いいたします。

新世紀の医学に向けて (49)

北海道大学認知症研究共同プロジェクト拠点 ~増え続ける認知症にどう挑むか

厚生労働省によると、65歳以上の認知症患者の数は2025年には約700万人(高齢者の約5人に1人)になると予想されています。これは現在の小学校1年生から6年生まで全小学生数650万人を優に超える数字であり、憂慮すべきものです。この患者増の理由としてたくさん原因が指摘されていますが、社会構造の高齢化が最も大きな要因であろうと推察されています。とくに北海道は少子高齢化が顕著であり、認知症患者が多い課題先進地域であるといえます。認知症対策には医療の観点のみならず、社会問題として幅広く取り組む必要があります。そこで北海道大学では、認知症関連の研究や対策の推進と社会実装を目指し、2022年4月に認知症研究拠点を設置しました。

北海道大学では今までも、医学研究院、保健科学研究院、先端生命科学研究院、情報科学研究院などに所属する各研究室が個別に認知症関連研究を行い、それぞれが大型資金を獲得するなど、一定の成果を上げてきましたが、本研究プロジェクト拠点では、それらを有機的かつ横断的につなげることで「予防・早期発見・診断・治療・ケア・病理診断までシームレスに連携する研

究拠点」となることを目指しています。認知症研究では、将来の認知症患者のことを考えた予防法や治療法開発の研究と、現在の認知症患者をどのように支え、その人らしく生きていけるようにするかという社会的課題を解決する研究を並行して進捗させる必要があります。AIなどの活用方法を考える情報工学なども含め、専門領域の枠にとらわれずに取り組みべき課題はたくさん存在します。例えば臨床医の視点から考えますと、認知症は認知機能低下による症状名でしかなく、特定の疾患を指すものではありません。「頭痛」や「腹痛」と同じです。認知症という症状が明らかにあるにも関わらず、その原因となっている疾患を診断することが難しい症例も時々経験します。認知症を呈する疾患はアルツハイマー型認知症をはじめとして無数に存在しますので、それらを正確に診断する技術開発が必要です。ゲノム医療やバイオマーカー開発がこの領域に今後貢献することが期待されています。このような研究も含めて本研究プロジェクト拠点では、「認知症の予防・診断・治療技術開発」「共生コミュニティの創造」「デジタル化普及とデジタルデバイドの解消」の3つを

軸として研究を進捗させることを目指しています。

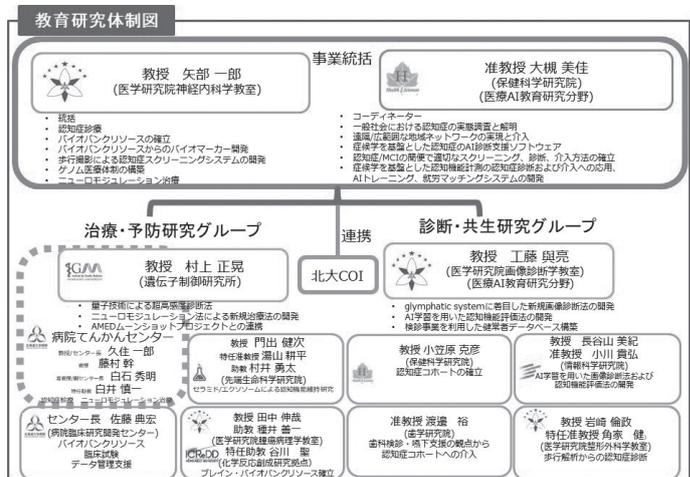
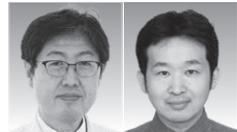
2022年7月2日に行われたスタートアップ講演会では、日本学術会議「認知障害に関する包括的検討委員会」の委員長を務めていた資金清博総長(65期)の基調講演も行われ、増田隆夫理事(副学長、研究、産学官連携担当、本学最高研究責任者)を始めとする大学関係者のみならず、学外の研究者や企業関

係者など多くの方々参加があり、産学連携の気運も醸成され、盛会のうちに終了しました。

本研究プロジェクト拠点では、総合大学としての強みを活かし、認知症と共生できる社会の実現に貢献したいと考えています。同窓会の皆様におかれましても、本研究プロジェクト拠点に対してご指導、ご支援を頂けますと幸いです。

神経内科学教授
矢部 一郎(67期 拠点統括)

神経内科学特任助教
白井 慎一(83期 事務局担当)



認知症研究プロジェクト拠点教育研究体制図(2023年1月現在)

イラストを味方に

医学科6年 佐々木 美羽(第100期)



100期の佐々木美羽と申します。この度「医学とイラスト」のテーマで寄稿させていただくことになりました。お目汚しを失礼いたします。

私は幼い頃からイラストが好きで、上手い下手はさておき小中学校までは自由帳にお絵描きをしたり、文集や学級通信の挿絵を描いたりしていました。高校生になると勉強やその他諸々に追われて絵を描く機会はほぼなくなり、ノートの端に落書きするくらいでした。

大学生になり再びイラストを描くようになったのは大学3年生の春、小学校のときの友人からの仕事の誘いがきっかけでした。その仕事は、一般向け医療コラムに載せる挿絵を描くというものでした。「あったかい絵柄で一般の人でも親しみやすいイラストが欲しい」とのことで、私の描く絵がちょうどいいのではと思ったそうです。私はちょうどコロナの影響で時間があったこと、久々に絵を描きたいと思っていたことから、その仕事を引き受けることにし

ました。依頼主の書いたコラム記事と欲しい絵のイメージを教えてもらい、試作品を描きます。それを提示して、依頼主のイメージとすり合わせしながら修正していきます。試行錯誤で大変なときもありましたが、わかりやすい、親しみが持てる、といった感想をいただいたときは、作った甲斐があったと喜んだ記憶があります (Fig.1)。

このお仕事をきっかけに、腫瘍病理学教室のおはようロボットのロゴ・キャラクター作成 (Fig.2)、同窓会誌の表紙のイラスト制作 (Fig.3) など、新たなご依頼もいただきました。自分の好きなことを活かす機会をいただけて、本当にありがたく思います。

1番最近では、「病理とAI」をテーマとしたイラストを描きました (Fig.4)。近年AIの発展により、病理医の仕事もAIに取って代わられるのではないか、という議論が起きてい

るようです。それは実際には難しい話

で、AIはあくまで診断補助的な役割に過ぎず、置き換えられるものではないと一般の人にも伝えたい。それにあたり、ぜひイラストの力を借りたいということで、腫瘍病理学教室の田中先生にお声がけいただきました。概念的なものを絵に表現するという難しいものですが、AIを犬に例えてサポートの役割をイメージしやすしたり、AIの持つ近未来的なイメージを宙に浮かぶパネルで表現してみたりと、さまざまに工夫してみました。このイラストは現在病理学教室のホームページに掲載されていますが、一般の方に病理とAIの関係を伝えるお手伝いできていこ

とを切に願うばかりです。

このような最近の活動を通して感じたことは、イラストは絶大なる味方である、ということです。イラストは物事の理解を助ける有力なツールであり、自分の持てる知識をわかりやすく伝える大きな役割を果たします。特に医療知識は非医療者にとって難しく抵抗のある場合が多いので、イラストを活用することで理解のハードルを下げ、また親近感を得ることによりコミュニケーションもとりやすくなるのではないかと感じております。

今後もイラストを趣味として、ときには味方として活用しながら続けていきたいです。

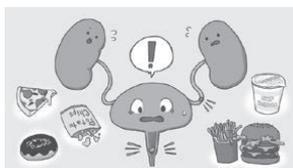


Fig.1 医療コラム挿絵の一例



Fig.2 おはようロボットのロゴ・キャラクター



Fig.3 同窓会誌表紙 夏のフラテとポラ並木のイメージ



Fig.4 病理とAIのイラスト

医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第11回

ハンドボール部

医学部3年
吉岡 紘亮(第103期)

北海道大学医学部ハンドボール部には現在、プレイヤー8名、マネージャー2名の計10名の部員が所属しています。練習は週に2、3回、札幌市内の小中学校の体育館や札幌医科大学と合同で練習しています。ハンドボール部は例年、夏の東医体や、春と秋のリーグ戦(春学連と秋学連)、札幌市民スポーツ大会などに参加しています。2022年度はコロナ禍の影響で東医体は開催されませんでした。現在は春学連での二部昇格を目標に練習しています。

私たちの部活の良いところは、部員数が少ない分部員同士の仲が非常に良

く、先輩と後輩、プレイヤーとマネージャーに関係なく良い雰囲気です。ハンドボールは7人でやるチームスポーツであるためチームの団結力が強く、とても良いと感じています。部活がないプライベートのときでも部員同士で集まって遊んだり、ご飯を食べたりすることも多く、このような空気感他は他の部活と比べても唯一無二であると思います。

ハンドボールは日本ではまだまだ比較的小規模なマイナーなスポーツですが、ハンドボールという競技や北大医学部ハンドボール部の魅力をこれから後輩に伝

え、より部活も大きくしていきたいと考えています。

最後になりますが、顧問の渡辺雅彦先生、OB、OGの方々、日頃より北大医学部ハンドボール部の活動にご支援を

賜り厚く御礼申し上げます。今後多くのご協力に感謝しながら精進してまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



バレーボール部

医学部3年
佐藤 拓馬(第103期)

北海道大学医学部バレーボール部は現在プレイヤー9名マネージャー2名の計11名と比較的少数で活動しています。練習は札幌市内にある大学近辺の小中学校の体育館を借りて行っています。基本的に火、木、土曜日の週3回練習を行い、これに加えて不定期で練習試合や各種大会に参加しています。春夏は大会シーズン、秋冬は大会が少ないため基礎力をつけることが多いですが1年を通して気候などに左右されずに練習できることが強みです。

プレイヤーは医学部、保健学科から入部します。私たちにコーチ等の指導者はいません。代わりに練習メニューの作成から指導までバレーボール経験者が主体となって行っています。バレーボールは最低でも6人いないと試合が成

立しません。私たちは部員が少ないので初心者も試合に出ることが多く育成が欠かせません。大学から始めた初心者は経験者に教わりながら基礎力を身に付けます。経験者においても別のところでやっていた人が集まるわけですから合わせる必要があります。

こうしてコート内で必要となる部員同士の連携を日々の練習の中で培い、学生主体のチームを作り上げています。これが今までの中高の部活とは違い自分たちで作り上げる、大学の部活であると考えています。

しかし昨今のコロナウイルスの影響により東医体をはじめとする多くの大会が中止となり、チームの成果を発揮する場がないという歯痒い思いで引退していく部員も数多くいました。ただ

その中で今年度に出場した春学連、秋学連では2部残留、さらに2月に参加した道央リーグでは3部優勝を果たすことができました。大会等による区切りがなく流れるままに新チームに移行したわけですが、各々練習の成果を発揮しながらチーム一丸となって戦えた結果だと考えます。

最後に、次年度からは例年通りの大

会やイベントが開催されるようになってくると予想されます。部員の全員にとって初めての経験となることと思われれます。今私たちが不自由なく活動できているのは、ひとえにOBOGの先生のお陰であります。このことを忘れず目標達成に向け邁進してまいりますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



理事会・評議員会報告

○日時 令和5年4月24日(月)
18:30 ~ 19:15

○場所 医学部百年記念館 大会議室

【理事会】、【評議員会】

理事9名、監事1名、評議員57名(出席者14名、委任状提出43名)

会議に先立ち、本日の理事会・評議員会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、合同で開催することが提案され、これが了承された。

○議事

【協議事項】

1. フラテ研究奨励賞選考委員会委員の選出について
5名の選考委員が了承されました。なお、任期は令和5、6年度の2年間で

2. 令和4年度会計収支決算(案)について
会計収支決算状況、特別会計預金状況及び各期別会費納入状況について説明後、審議の結果、これが了承された。
3. 令和4年度会計監査について
会計監査結果について説明後、審議の結果、これが了承された。
4. 令和5年度会計収支予算(案)について
令和5年度会計予算(案)について説明の後、審議の結果、これが了承された。
5. 北海道大学校友会エルムの理事及び委員会委員について
校友会エルムの理事には大場雄介理事に、委員会委員には近祐次郎理事にお願いする旨説明の後、審議の結果、これが了承された。

【報告事項】

1. 次期評議員、予備評議員について
令和4、5年度、各期毎の評議員及び予備評議員一部交代について報告があった。
2. 令和4年度庶務、事業報告について
久任副会長から総会及び新入会員歓迎会の開催状況等について報告がありました。

3. 令和5年度編集報告について
田中理事から同窓会新聞及び同窓名簿の発行状況等について報告がありました。
4. その他



告知板

<教授就任挨拶>

<北大医学部39期生卒後60周年記念同期会>



北海道医療大学心理科学部 教授

柳生 一自(76期)

2023年4月1日付けで、北海道医療大学心理科学部教授を拝命いたしました。2000年に北海道大学を卒業後に、北大小児科に入局、主に小児神経医療の臨床、研究を行ってきました。その後、北大の児童思春期精神医学講座の開設に伴い、児童思春期精神医学分野で主に子どもの神経・精神医学の臨床、研究に関わらせていただきました。今後は臨床の第一線で活躍できる公認心理師を育成するとともに、子どもたちの神経・精神医学の臨床や研究を継続していきたいと思っております。皆様にはより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

主題～遠き日そして遙かなる日～

日時：令和5年9月15日（金）18:00 札幌グランドホテル 3F 紅葉の間
幹事：鎌田 覚、小西 藤平、鈴木 重統、松浦 信夫

<61期同期会のお知らせ>

卒業後38年が経ちました。コロナで滞っておりましたが、卒業35年相当の記念同期会を開催します。日時は2023年9月23日（土）16時。場所はニューオオタニイン札幌です。ふるってご参加ください。
61期 真部 淳（北大小児科）

<64期卒業35周年記念同期会>

日時：令和5年7月15日 場所：札幌パークホテル 詳細は、加藤まで

<学内・院内人事異動>

<定年退職>

2023年 3月31日 長 和俊(61期) 周産母子センター 准教授
(JCHO北海道病院 周産期センター長)

<辞職>

2022年12月31日 甲谷 太郎(89期) 循環器内科 特任助教(海外留学)
2023年 3月31日 瀧田 恒一(64期) 麻酔科 講師(未定)
菊地 英毅(73期) 呼吸器内科 講師(開業)
朝比奈 肇(75期) 呼吸器内科 助教(北海道がんセンター)
岩田 大樹(78期) 眼科 講師(竹内眼科医院 副院長)
今福 恵輔(88期) 皮膚科 助教(留学)
多田 篤司(89期) 循環器内科 助教
(留学 メイヨークリニック Visiting Research Fellow)
野田 航介(会員2) 眼科学教室 准教授
(札幌そうせいイーストクリニック 理事長、院長兼務)
4月30日 藤井 知昭(85期) 麻酔科 助教(開業)

<任期満了>

2023年 3月31日 深井 原(70期) 消化器外科学教室 I 特任研究講師(未定)
菊地 順子(73期) がん遺伝子診断部 特任助教(菊地内科・呼吸器科)
柳生 一自(76期) 児童思春期精神医学研究部門 特任助教
(北海道医療大学心理科学部 教授)

<採用>

2023年 4月 1日 清水 薫子(78期) 呼吸・循環 未来医療創発研究部門 特任講師
新垣 雅人(79期) 呼吸器外科 助教
池澤 靖元(80期) 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 特任助教
兼次 洋介(80期) 周産母子センター 助教
董 震宇(80期) 眼科 助教
大原 克仁(81期) がん遺伝子診断部 特任助教
長津 明久(81期) 消化器外科学教室 I 特任研究助教
栗栖 宏多(82期) 先端脳卒中治療・医療経済学分野 特任助教
岡田 宏美(83期) 病理診断科 助教
齊藤 良玄(84期) 産科 助教
庄司 哲明(84期) 呼吸器内科 助教
中園 彬(84期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 特任助教
福田 篤(85期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 特任助教
久田 諒(86期) 免疫・代謝内科学教室 助教
山崎 博之(86期) 産婦人科学教室 特任研究助教
釜場 大介(87期) 整形外科 助教

水口 賢史(90期) 心不全低侵襲先進治療学分野 特任助教
柏木 彩花(93期) 細胞生理学教室 助教
竹崎俊一郎(会員2) 小児科学教室 特任研究助教
長谷敬太郎(会員2) 眼循環代謝学分野 特任助教
古田 恵(会員2) 男女共同参画推進室 特任助教
岩崎 浩司(79期) 膝関節機能再建分野(特任助教)
遠藤 努(82期) 未来型遠隔医療開発・実践分野(特任助教)
中川 雅夫(74期) 血液内科学教室 助教
北潟谷 隆(90期) 消化器内科 特任助教
前田 拓哉(91期) 皮膚科 助教

<昇任>

2023年 3月 1日 的場光太郎(81期) 法医学教室 教授(同教室 講師)
4月 1日 南場 研一(68期) 眼科学教室 准教授(眼科 講師)
朝倉 聡(69期) 保健センター 教授・センター長(精神医学教室 准教授)
安藤 亮(78期) 眼科 講師(同科 助教)
川堀 真人(79期) 脳神経外科学教室 講師(同教室 助教)
村上 学(81期) 医学教育・国際交流推進センター 准教授
(同センター 講師)
馬詰 武(83期) 周産母子センター 准教授(産科 講師)
干野 晃嗣(83期) 麻酔科 講師(同科 助教)
佐藤 隆博(会員2) 呼吸器内科 講師(同科 助教)
藤岡容一朗(会員2) 細胞生理学教室 准教授(同教室 講師)

<所属換>

2023年 4月 1日 木嶋 理紀(80期) 眼科 助教(眼科学教室 助教)
相川 勝洋(84期) 麻酔科 助教(麻酔・周術期医学教室 助教)

<その他>

2023年 4月 1日 長 和俊(61期) 小児科学教室 連携講座教員(客員教授)
(JCHO北海道病院 周産期センター長)
横尾 英樹(68期) 消化器外科学教室 I 招へい教員(客員教授)
(旭川医科大学外科学講座 教授)
北市 伸義(69期) 眼科学教室 招へい教員(客員教授)
(北海道医療大学病院 病院長)
Saseem Poudel(84期) 消化器外科学教室 II 招へい教員
(国立がんセンター東病院大腸外科がん専門修練医)
野田 航介 眼科学教室 招へい教員(客員教授)
(札幌そうせいイーストクリニック 理事長、院長兼務)

百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当までご連絡願います。

1F 大会議室

[収容人数：54名]

会議やセミナーに利用することを目的として設けました。椅子54脚と会議机27台の他、音響設備、映像設備を備えています。ホワイエの間は大きな引戸になっており、開放してより大きな空間として利用することができます。

【設備】
椅子／会議用机／
電動スクリーン／
液晶プロジェクター（固定）／
ワイヤレスマイク

2F 多目的ホール

[収容人数：42名]

会議よりもカジュアルでオープンな空間として、椅子42脚の他、大会議室同様、音響設備、映像設備を備えています。映像・音声メディアを活用したディスカッションや発表会に適しています。

【設備】
椅子／電動スクリーン／
液晶プロジェクター（固定）／
ワイヤレスマイク

2F 小会議室

[収容人数：18名]

小規模な会議やセミナーに供することを目的として設けました。最大18名での会議を行えます。木材を主とした建物全体の内装と趣を変え、落ち着いた雰囲気や集まることのできる空間になっています。

【設備】
椅子／会議用机

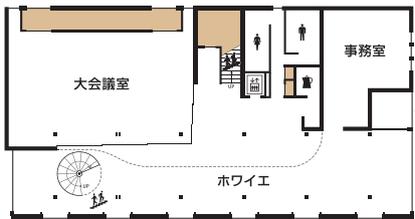
お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当

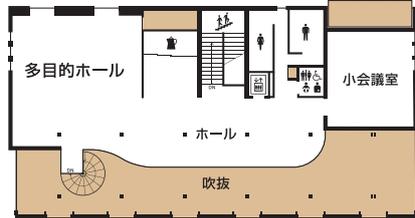
TEL: 011-706-5004 FAX:011-717-5286 E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp

【受付時間】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）午前10時15分から午後5時まで

1F



2F



事務局からお知らせ

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。
 同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込
※詳しくは同窓会新聞に同封される申込票をご覧ください。

○会費未納者と刊行物の送付

・過年度分未納会費が2年を超える会員

には、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。
 ・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した

会員の会費は、翌年度から免除となります。
 ・43期生は令和5年度から、44期生は令和6年度の会費から免除となりますが、免除前に過年度分2年を超える未納会費があると、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名近い会員が加入して、ご好評をいただいています。
 本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。
年度途中ででも加入出来ますので、同窓会事務局あるいは取扱代理店にお問い合わせください。

（同窓会事務局）
 電話：011-706-5007
 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
 （取扱代理店）
 株式会社第一成和事務所
 〒103-8214 東京都中央区日本橋

久松町11-6 日本橋TSビル8F
 フリーダイヤル：0120-100-492
 E-mail: koumu@d-seiwa.co.jp



新刊書紹介



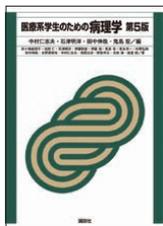
「落ち葉のつばやき」

こばやし ひろし
 小林 博(28期)
 ※（問合せ先）札幌がんセミナー
 TEL: (011)222-1506 FAX: (011)222-1526
 E-mail: scs-hk@phoenix-c.or.jp

前作の“枯れ葉のひとりごと”から1年も経たないうちに、“落ち葉のつばやき”が刊行されました。小林博先生の題名の付け方のセンスが何より素晴らしいと感じます。枯れ葉の次が落ち葉で第3作目はなんと名付けられるのか今から楽しみです。90歳代半ばを超えても第一線で活躍されているお姿は誰もが驚きを感じていることと思います。
 本の内容は9つの章から構成されており、前半の2つの章は最近の世の中の動きに関する考察が書かれています。最初が“ウクライナ侵襲悲劇のこれから”、第2章は“いつかまた来るパンデミック”と名付けられています。二つとも小林

先生は十分な資料を駆使されて深い洞察のもと、ある種の科学論文を思わせるような記述をなされています。いずれも小林先生の専攻とはかけ離れた分野ですが、がんを語る時のようなはつきりした視点を持っておられることがよくわかります。ロシアはなぜウクライナに侵襲したかについて、二つの国の歴史から解き明かし、ロシアの侵襲を喜ぶものは誰もいないと結論づけ、将来的に中国が台湾に侵襲するかどうかにまで言及されています。コロナウイルスの項では、“終わりではなかった感染症の時代”というサブタイトルのもと、新型コロナウイルスの対策のあり

方について世界とわが国を比較して記述されています。その後の章は小林先生お得意の健康長寿、老いの制御についての最新の知識、がん自体の考え方などについてユニークな発想で述べられています。小林先生は生まれ変わっても医学を志し、その中でも公衆衛生を選択したいと考えておられるところが興味深いと感じました。
 小林先生は枯れ葉や落ち葉ではなく、まだまだ緑の葉を再生し続けておられます。ますますお元気で過ごされ、私たちを鼓舞し続けて下さい。
 (48期 浅香正博)



「医療系学生のための病理学(第5版)」

なかむら にしお いしづ あきひろ
 中村 仁志夫(44期)、石津 明洋(66期)、
 たなか しんや
 田中 伸哉(66期)他編
 講談社サイエンスエディック ¥4,400

第4版までの執筆者8名に若手を含む気鋭の7名を加えた15名の著者により成るが、時あたかもCOVID-19のパンデミックの中で、改訂に5年の歳月を費やした。
 扉を飾る写真に“Hic locus est, ubi mors gaudet succurrere vitae!”の至言が掲げられ、病理解剖の重要性が説かれている。そうした剖検例や生検例の検索で得られた新旧の貴重な写真の呈示と解説が本書の最大の特徴であろう。
 統計学的な資料としては27年間継続して集計したものから最近のものまで

が幅広く含まれており、白血病の分類における遺伝子変異の導入やIPS細胞の開発に基づく再生医療の進展など、多くの今日的課題についても語られている。
 類書と比較してコラムの多彩性にも見るべきものがある。例示するに、「病腎（修復後）移植の是非」「ヒトのからだの内と外」「細胞周期の意義」「カルタゲナー症候群」「糖尿病とHbA1c」「胎生期の三胚葉起源」「エコノミークラス症候群」「PCR検査」「マダニとSFTS」「細網内皮系」「がんか、ガンか、はた癌か」「がんは遺伝病か?」「不死細胞ヒーラ」「性

差医療と慢性疲労症候群」「エキノコックス症」「パーキットリンパ腫とEBウイルス」「分子標的治療」「HER2とトラスツズマブ治療」「ロコモティブシンドローム」「ポリグルタミン病」「脳と免疫系」「天気と体調不良、“気象病”」など、初版から30年の経過の中で新たな病理学的概念が培われてきていることが示されている。
 医療系学生には医学生も含まれよう。
 (66期 蝦名康彦)



「マンガで学ぼう! がんのキホン」

いもと しんじろう
 近藤 慎太郎(74期)
 医学書院 ¥2,420

著者は開業医として働かたわら、得意のマンガを駆使した著作活動や、医療系YouTuberとして医療情報を分かりやすく伝える活動をしています。今まで一般の人向けに4冊の単行本を出していて、今回は医学書院から初めて医療者向けに出したとのこと。
 もともと医学書院の看護師を対象にしたサイトで連載されていたので、たしかに看護師や技師、研修医などが、がんについて広く学べるような構成になっています。しかし内容は決して浅いわけではなく、普段からがんの診療

を行っている医師であっても、おそらく新しい発見があるはず。たとえば「がんを定義する3つの特徴は?」「各がん検診の死亡率減少効果はどれくらい?」「がん検診で注意すべき4つのバイアスとは?」「放射線の単位であるベクレルとグレイとシーベルトの使い分けは?」「被ばくで発がんリスクが高まるのはどれくらいから?」「がんの終末期に関わる、地域包括ケア

システムと地域医療構想の関係は?」などの疑問について、少しでもあやふやなところがあれば、この本を手にとってみる価値があります。オールカラーのマンガがふんだんに使われていて、文字も大きく、読みやすい構成になっています。診察室や医局に一冊置いておいて、「あれはなんだったっけ?」と思ったときに、パッと開いて確認するのに最適です。
 (70期 大西俊介)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2023年6月20日(火)までにお送りください。
 【字 数】 本文600字以内をお願いします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)・出版社名、金額(税込)を、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。
 【書評執筆者】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2名含む)に限ります。
 【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp
 【掲 載 号】 新聞176号(9月号、9月上旬頃発送開始予定)

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいております。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和4年は第97巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）

・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況（令和4年12月31日現在）

- ・一般会員 566名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 2名（年会費 1,000円）
- ・特別会員 73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 165名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
電話：011-706-5007
E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。ご自身で処分が困難な方は、郵便（レターパック等）により同窓会事務局へ送ってください。**なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。**

○送付先

〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部内
北海道大学医学部同窓会事務局

令和5年度北海道大学医学部同窓会誌 原稿募集について

今年度は、同窓会誌発刊の年に当たっており、11月下旬発送予定で編集作業を進めております。原稿等掲載をご希望の方は、次の要領でご投稿ください。よろしくお願いいたします。

◎「写真・絵画等」「芸文」

短歌、俳句、川柳、詩、書、絵画、版画、写真等(カラー掲載)、論説、随筆、紀行文など(本文3200字程度および写真等掲載可)
締切日：**令和5年7月21日(金)午前中必着**

※【書・絵画・版画・写真等】 光沢紙にカラーで掲載いたします。
※【随筆、紀行文などの文中に写真等を掲載されている場合】 いただいた原稿にあわせて白黒もしくはカラーで通常の用紙に印刷いたします。なお、写真等のみ光沢紙に掲載をご希望される場合は、本文は通常の用紙、**写真等は「カラーページ」に分けて掲載**することができま。ご希望の方は「**カラーページ掲載希望**」と書いてお送りください。

※原稿、写真等は可能でしたらメールでお送りください。
※普通郵便・ゆうメールでお送りくださる際は、ポスト投函日が土日祝日の前日の場合、届くまでに5~7日程かかりますので、ご注意ください。

◎ 会員(2)「各期だより」について

- ・締切日：**令和5年7月21日(金)午前中必着** (原稿をいただけない場合は、氏名のみ掲載とさせていただきます)
- ・内容：ご自身の近況(ご氏名をご記入下さい)
- ・字数：400字程度(横書き)

<原稿送付先>

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北海道大学医学部同窓会事務局
TEL&FAX:(011)706-5007 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

過年度会費が2年を超える 会費未納者と同窓会誌の発送について

2014年度より、**過年度分未納会費が2年分(1万円)を超える会費未納者**には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

過年度分未納会費が2年を超える会員で、本年度の同窓会誌の送付を希望される方は、2023年9月30日までに未納会費の納付をお願いいたします。期日以降に納付されても、印刷部数確定のため、今年度の会誌をお届けすることはいたしかねますので、ご了承ください。

●ご注意ください

【令和5年度同窓会誌について】

過年度分未納額が1万円を超えている方の納付期限は2023年9月30日としております。たとえ年度内(2024年3月31日までに)未納額を納付いただきましても、当年度発行の会誌をお届けすることはできません。

【過年度分の名簿および会誌について】

後日、滞納分を納付されましても、個別発送はいたしません。

一面の写真説明

「桜のトンネル」 呼吸器内科学教室 教授
今野 哲(会員2)

歯学部側より、医学部百年記念館に向けて撮った桜のトンネルです。

桜のトンネルは、北大医学部30期の卒業生が卒業後30周年を記念して植樹した30本の八重桜とのことです。学生の皆様は、この八重桜を見て、北大に入学して良かったなあと感じることでしょう。

編集後記

昨年より編集委員を拝命しております神経内科学教室の松島理明です。同窓会新聞に携わる中で少しでもみなさまのお役に立つことができれば幸いです。本号では、今野先生の見事な桜の写真に始まり、今春の新たな出会いと旅立ちに関わるお知らせなども多く掲載されております。本誌では今後も同窓の先生方の最新情報をお届けします

ので、お時間のある際にぜひご一読ください。また、昨年から今年にかけて、世の中は徐々にコロナ前の状況に戻りつつある部分があるように見えます。同期会のお知らせ欄が賑やかになり、同窓会活動も再び活発になっていくことを祈念いたします。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
(80期 松島理明)

◎同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。

<https://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

◎新聞最新号webサイト公開時には、各期評議員・予備評議員の皆様にもメールで周知をさせていただきます。

ご逝去者 新聞174号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2018年			2023年		
9月1日	朝倉 淳 景	樺太	1月2日	本 間 均	30
2021年			1月16日	菅 原 啓	53
2月15日	葛 西 善一郎	専3	1月23日	松 野 正 俊	30
2022年			2月6日	菊 地 義 一	36
4月	青 笹 徹	56	2月15日	吉 田 本 田	54
10月22日	田 端 重 男	32	2月16日	松 本 三 雄	30
11月16日	大 原 弘 通	25	2月28日	内 蜂 谷 文 季	49
11月28日	清 田 典 宏	41	3月3日	蜂 谷 明 志	30
12月5日	田 中 博 文	48	3月4日	山 渡 志 也	35
12月11日	田 川 鎮 明	36	3月5日	田 部 瑛 眞	31
12月15日	西 川 勝 司	61	3月6日	尾 中 啓 宏	32
12月21日	和 田 正 太 郎	25	3月6日	長 内 富 士 夫	33
12月22日	佐 藤 一 義	63	3月30日	佐 藤 富 士 夫	42
12月25日	片 桐 一 裕	37	3月30日	三 好 秀 明	69
12月27日	神 島 裕	44	4月14日	佐々木 貞 雄	35
			4月19日	関 寺 美 起 恵	34
			4月20日	黒 田 義 彦	54
			4月22日	依 田 有 八 郎	45

◎会員登録情報の変更は、ホームページ内の「会員登録・変更フォーム」より、お手続きいただくことが可能です。

<https://hokudai-med-dousou.com/contact/>

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表(011)750-2205